

# 名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.252

2014年5月

平成26年度入学式を挙げる



## 目次

### ●ニュース

|                              |    |
|------------------------------|----|
| 平成26年度入学式を挙                  | 3  |
| 名古屋大学オープンレクチャー2014を開催        | 12 |
| 平成26年度科学技術分野の文部科学大臣表彰受賞者が決まる | 12 |
| 第44回経営協議会を開催                 | 13 |

### ●知の先端

|                    |    |
|--------------------|----|
| 電子状態計算に基づいた材料科学    | 14 |
| 松永 克志 (大学院工学研究科教授) |    |

### ●知の未来へ

|                                  |    |
|----------------------------------|----|
| 疾患マーカーの探索—タンパク質上に形成される修飾付加体の解析から | 16 |
| 柴田 貴広 (大学院生命農学研究科助教)             |    |

### ●部局ニュース

|                                      |    |
|--------------------------------------|----|
| 文学研究科附属人類文化遺産テキスト学研究センターの看板上掲式を挙     | 17 |
| 3大学合同シンポジウム及び合同学術協力会議を開催             | 17 |
| 医学部附属病院アジア内視鏡トレーニングセンター看板上掲式を挙       | 18 |
| 「学術合同研究会『日本語文化研究』」を開催                | 18 |
| 中央図書館の老朽対策等基盤整備事業竣工式を実施              | 19 |
| 第1回神経回路国際シンポジウム                      | 19 |
| 「実世界データ循環学リーダー人材養成プログラム」オープニングセレモニーを | 20 |
| 開催                                   |    |

|                |    |
|----------------|----|
| 第99回防災アカデミーを開催 | 20 |
|----------------|----|

|                 |    |
|-----------------|----|
| 第100回防災アカデミーを開催 | 21 |
|-----------------|----|

|                           |    |
|---------------------------|----|
| ICCAE2013年度第6回オープンセミナーを開催 | 21 |
|---------------------------|----|

|                           |    |
|---------------------------|----|
| ICCAE2013年度第7回オープンセミナーを開催 | 22 |
|---------------------------|----|

|            |    |
|------------|----|
| ●新名誉教授のことば | 23 |
|------------|----|

|               |    |
|---------------|----|
| ●名大を表敬訪問された方々 | 26 |
|---------------|----|

|                |    |
|----------------|----|
| ●新たに締結した学術交流協定 | 27 |
|----------------|----|

|              |    |
|--------------|----|
| ●構成員を対象とした研修 | 27 |
|--------------|----|

|            |    |
|------------|----|
| ●新任部局長等の紹介 | 28 |
|------------|----|

|      |    |
|------|----|
| ●資 料 | 30 |
|------|----|

|                                 |    |
|---------------------------------|----|
| ●本学関係の新聞記事掲載一覧 平成26年3月16日～4月15日 | 33 |
|---------------------------------|----|

### ●INFORMATION

|                          |    |
|--------------------------|----|
| 第55回名大祭を6月5日(木)～8日(日)に開催 | 36 |
|--------------------------|----|

|            |    |
|------------|----|
| ●イベントカレンダー | 37 |
|------------|----|

|                |    |
|----------------|----|
| ●ちょっと名大史       |    |
| 古川図書館から新中央図書館へ | 40 |

# 平成26年度入学式を挙







平成26年度名古屋大学入学式が、4月5日(土)、豊田講堂において、大学院は午前9時30分から、学部については、文、法、経済、理、医学部を対象に午前11時から、教育、情報文化、工、農学部を対象に午後1時からそれぞれ挙行されました。

今年度の入学生は、大学院2,235名(修士課程及び博士課程前期課程1,649名、大学院法学研究科専門職学位課程(法科大学院)61名、医学博士課程及び博士課程後期課程525名)及び学部2,216名の計4,451名です。

名古屋大学交響楽団が演奏する「ニュルンベルクのマイスタージンガー」前奏曲(ワグナー作曲)で始まった式典では、濱口総長から、大学院入学生及び学部入学生それぞれに対し、祝辞が述べられました(詳しくは総長の辞をご覧ください)。

続いて、各研究科長等の紹介があった後、大学院生命農学研究科博士課程前期課程入学生の山口毅志さん、経済学部入学生の瀬住優太さん及び教育学部入学生の朝原佳菜子さんが、入学生総代として、入学にあたり、本学の学生としての本分を全うすることを宣誓しました。



また、名古屋大学全学同窓会会長の豊田章一郎氏(トヨタ自動車株式会社名誉会長)より祝辞をいただきました(詳しくは、来賓祝辞をご覧ください)。

引き続き、名古屋大学混声合唱団が、歓迎の歌を合唱し、名古屋大学交響楽団による「交響曲第1番第4楽章」(ブラームス作曲)の演奏とともに、式典は幕を閉じました。

式典の後、学部入学生を対象として、学生による「入学祭典」と称したサークル紹介が行われました。様々なサークルによる趣向を凝らしたステージパフォーマンスに、会場は大いに盛り上がりました。

終了後は、豊田講堂の前庭に詰めかけた大勢の学生に部活やサークルの勧

誘を受けたり、家族などと晴れやかな表情で記念撮影をしたりする入学生の姿が見られました。

入学式の様子は、経済学部カンファレンスホール及びIB電子情報館大講義室、また、本学ホームページ上においてライブ中継され、多くの方々がこの晴れがましい式典に臨みました。

なお、入学式の模様は、現在、本学のホームページ(<http://www.nagoya-u.ac.jp/info/26.html>)で視聴することができます。

# 平成26年度大学院入学式祝辞

名古屋大学総長 濱口 道成



皆さん。名古屋大学大学院へ入学おめでとうございます。名古屋大学大学院は、本日、修士課程及び博士課程前期課程1,649名、専門職学位課程61名、医学博士課程及び博士課程後期課程525名、総数2,235名の大学院入学生を迎えました。研究を志し、大学院へ進まれた皆さんに、名古屋大学を代表して心から祝福し、歓迎します。

さて、皆さんの入学された名古屋大学は、その創基歴史を、明治4年に開設された尾張藩の仮医学校に遡ります。その後、幾度かの存続の危機を超え、昭和14年（1939年）に名古屋帝国大学として創立されました。現在では、9学部・14研究科・3研究所からなる基幹研究大学となりました。仮医学校として出発してから143年、総合大学になってから75年を迎え、中部地区で最も古い総合大学です。

さてこの名古屋大学の歴史は、我々に何を語っているのでしょうか。私は、名古屋大学の歴史は、2つの重要な特徴を持つと思います。まず第1として、名古屋大学は常に中部の発展と共にあった、またあり続けることであります。中部は日本のものづくりの拠点、国際的な産業の集積地であります。愛知県の工業出荷額は34兆円で全国1位、工業統計調査24業種中10業種で全国1位、製造業従事者は80万人でこれも全国1位です。この愛知県が全国1位になったのは、昭和52年、1977年の事です。実に37年、皆さんの年齢より長い間、1位を続けています。愛知は正に日本の産業の心臓部であります。その中にある名古屋大学は、常に中部地区の人材育成を担ってきました。本日も臨席の豊田章一郎全学同窓会長や、次期経団連会長の榊原定征東レ会長をはじめとして、日本の産業をけん引する方々を名古屋大学は輩出してきました。今、日本経済新聞は豊田会長の「私の履歴書」を掲載中です。ぜひ読んでください。

名大の第2の特徴は、研究者の育成にあります。名古屋

屋大学は、自由闊達な学風を誇り、豊かな人間性を持つ勇気ある知識人の育成を学術憲章に掲げています。皆さんもご存じのように、2001年に野依良治先生がノーベル化学賞を受賞されておられます。2008年、益川敏英先生と小林 誠先生がノーベル物理学賞を受賞されました。また、下村 脩先生がノーベル化学賞を受賞されました。4名の先生方の業績は、名古屋大学の自由闊達な学風が生み出したものとも言えます。

さて、今日大学院入学を迎えられた皆さん。皆さんの今の夢は何でしょうか。自立した科学者になる事あるいは社会的に成功を取める事でしょうか。それとも、幸せな生活を実現する事でしょうか。

今我々は、大きく価値観が変換する時代に生きています。振り返れば、20世紀の科学は多くの利便性と快適性、長寿と物質的幸福を人類社会にもたらしました。しかし一方で、人類社会は人口爆発や資源枯渇、食糧危機、環境破壊等の深刻な危機を生み出し、我々は、多様なそして地球規模で起る課題に直面しています。これらの背景のもと、いま日本の大学院教育に、イノベーション「科学的発見や技術的発明を洞察力と融合し発展させ、新たな社会的価値や経済的価値を生み出す革新」を実現できる人材の育成が求められています。

さて、イノベーションを生み出す人材は、どうしたら育成できるのでしょうか。今何が必要か。どう思われますか。

私は、まず伝統に根ざす発展が肝心であると思います。益川先生や小林先生を育てた自由な発想を支える対等な人間関係、若手研究者の自立を促す研究指導、「自由闊達な学風」こそ、名大の宝だと思います。そしてこの学風を、大学院教育の中に生かすべきであると考えます。

2つ目に、私が思う事。「若い人材の持つ才能の開花」と「良質の科学」は、多様な価値観と文化の中で生まれる





と考えています。そしてこの、多様な価値観と文化の充実  
は、大学の国際化、そして女性研究者の育成に鍵があると  
考えています。名古屋大学は、昨年度日本の国立大学の中  
で最も多数の女性研究者を採用しています。また、名古屋  
大学は、保育所の整備や女性教授の採用を積極的に進めて  
います。女性のみなさん、しっかり研究してください。

大学の国際化について。先ほど述べた名大の文化を、今  
の時代の課題として発展させるものとしても、大学の国際  
化は大切な課題です。名古屋大学は300を超える海外の大  
学・研究機関との間で学術交流協定を結んでいます。法政  
国際教育協力研究センター、医学部のヤング・リーダーズ・  
プログラム、農学国際教育協力研究センターや6課題の  
リーディング大学院プログラムなどを通じて、大学院教育  
の中で国際的な人材育成を図っています。また大学は、国  
際化拠点整備事業（グローバル30）を推進し、秋入学、全  
てを英語で指導するプログラムを進めています。近未来に  
は、名古屋大学生の2割が留学生となります。今、大学は  
小さな国際社会なのです。

3番目、今社会は、持続可能社会を実現する人材、国境  
を越えて生きる人材、グローバル人材を求めています。一  
方、最近の日本の若者は内向きだ、海外に出かけないと言  
われています。私はそうは思わない。我々が皆さんを内向  
きにさせていると思います。皆さんが、もっと海外で活躍  
できる環境、海外留学を体験し自己研鑽の機会を持てるよ  
うな環境を整えるべきだと考えています。リーディング大  
学院プログラムでは、皆さんの海外体験を支援していま  
す。例えば、モンゴルの平原でフィールドリサーチを体験  
し、ノースカロライナ・アンビションキャンプでは、英語  
漬けで起業家になる勉強をする機会を提供しています。試  
してください。

4番目。中部の活力を大学の力に、大学の展開力を中部  
の活力にできる名古屋大学にしたいと思っています。その



ために、グリーンモビリティ連携研究センター、ナショ  
ナルコンポジットセンター、細胞生理学研究センター、病  
院の臨床中核拠点、トランスレーショナルリサーチ拠点  
や、そして創薬科学研究科等を整備してきました。大学院  
生の企業でのインターンも整備しています。機会があれば  
積極的に参加してください。

5番目に、研究にとって最も大切なこと。それは、誠実  
であるということです。最近残念なことが続いています。  
それは、論文のコピペ、そして論文データの改ざんです。  
最近、再生医学の分野だけではなく、様々な分野で論文の  
コピーアンドペーストが起きています。科学者にとって、  
論文はその仕事に費やした自分の時間、人生の象徴です。  
かけがえのない時間の凝集と言えます。コピペは、科学者  
としての誇りと自尊を捨てるものです。ましてデータの改  
ざんは、多くの人々を欺く詐欺行為と言えます。そしてま  
た、このようなことが連続すると、科学全体への信頼が  
損なわれることとなります。どうか、誠実に真理と向き  
合ってください。

色々申し上げましたが、私の夢は、名古屋大学を「みん  
なの憧れる大学」として発展させていくことにあります。  
そのために最も大切なことは、今日入学された皆さんが、  
世界へ大きく視野を開き、未来を担う人材として育つこと  
です。「名古屋大学から Nagoya University へ」、これが私  
たちの大学改革の目標であります。英語を磨いてくださ  
い。そして、海外へ雄飛してください。

これからの皆さんの大学院生活が、生きる実感に満ちた  
生活であること、自分の才能に目覚める時代となる事を心  
より願い、私の本日の祝辞といたします。ご入学おめでと  
う。

# 平成26年度学部入学式祝辞

名古屋大学総長 濱口 道成



皆さん。名古屋大学へ入学おめでとうございます。本日にここに、2,216名の皆さんを名古屋大学へ迎えることとなりました。君たちの入学を、心から祝います。

入学にあたり、名古屋大学の歴史をお話しします。名古屋大学は、その歴史を、明治4年に開設された尾張藩の仮医学校に遡ります。その後、昭和14年（1939年）に名古屋帝国大学として創立され、戦後の復興期、大学紛争期、国立大学法人化を越え、9学部・14研究科・3研究所からなる大学として今日に至ります。仮医学校として出発してから143年、名古屋帝国大学になってから75年を迎える、日本の代表的な基幹研究大学です。

さて、143年にわたる名古屋大学は、2つの重要な特徴を持っています。

まず第1として、名古屋大学は常に中部の発展と共にあり続けたことです。中部は日本のものづくりの拠点、国際的な産業の集積地であります。平成24年度の愛知県の工業出荷額は38.7兆円で全国1位、工業統計調査24業種中10業種で全国1位、製造業従事者は80万人でこれも全国1位です。この愛知県の工業出荷額が全国1位になったのは、昭和52年、1977年の事です。以来37年にわたって1位を続けています。愛知は正に日本の産業の心臓部であります。その中にある名古屋大学は、常に中部地区の人材育成を担ってきました。本日ご臨席の、トヨタ自動車を世界一の企業へと育て上げられた豊田章一郎全学同窓会長や、次期経団連会長の榊原定征東レ会長をはじめとして、日本の産業をけん引する方々を名古屋大学は輩出してきました。今、日本経済新聞は豊田会長の「私の履歴書」を掲載中です。ぜひ読んでください。

名大の第2の特徴は、研究者の育成にあります。2008年、名古屋大学の先輩である益川敏英先生と小林 誠先生

がノーベル物理学賞を受賞されました。また、下村 脩先生がノーベル化学賞を受賞されました。3人の先生方に先立ち、2001年には野依良治先生がノーベル化学賞を受賞されておられます。このように、皆さんは素晴らしい先輩を持っています。この歴史を誇りとして下さい。

平成24年度のデータによれば、名古屋大学は、教員総数1,688人、職員数3,386人、学生数は学部生10,198人、大学院生6,376人、総数16,574人の学生総数、総計で21,648人の学生・教職員からなる大学です。また、昨年度の収入は運営費交付金等が997億3500万円、科学研究費が77億7248万円その他の競争的資金が64億8714万円、受託研究等が100億2349万円、合計1240億1800万円ありました。すごい金額ですね。大学は、高校とは全く違う世界であることが理解できると思います。更にあえて申し上げますと、昨年の科学研究費の獲得は、日本の総合国立大学の中で教員一人当たり件数で1位、金額で2位の成績を誇ります。また、国立大学研究力強化事業では、トップ4大学の1つに選ばれています。リーディング大学院プログラムも東京大学に次いで多い6プログラム獲得し、グローバル人材育成を大胆に図っています。またご存知だと思いますが、名古屋大学は全国でもトップレベルの就職率、昨年度は98%を誇ります。皆さんはこんな組織に入りこれから過ごすこととなります。

さて、皆さんは大学で何を勉強したいと思っていますか。どんな人になりたいと思っていますか。名古屋大学学術憲章に、「名古屋大学は、自発性を重視する教育実践によって、論理的思考力と想像力に富んだ勇気ある知識人を育てる」とあります。覚えておいてください。これはどんな意味を指すのでしょうか。

まず、このキャンパスの空間にあります。今朝気がつい



たと思いますが、名古屋大学は大きな門も高い塀もありません。この構造は、垣根のない、自由な空間を象徴しています。また、今皆さんの座っている豊田講堂を見てください。この豊田講堂は、50年を超える建築ですが、50年たっているとは思えないモダンな建物です。私たち名古屋大学は、常に自由であると共に時代の先端でありたいと、そしてこの豊田講堂とキャンパスが我々の心の象徴であると、私は思います。皆さんはどう思うでしょうか。

さて次に、ここで名古屋大学の国際化について、お話します。名古屋大学は、「名古屋大学から Nagoya University へ」を目標に、大学の国際化を積極的に進めています。既に4年前から、秋入学ですべての授業を英語で行う G30 と言うプログラムを始め、世界中から優秀な学生が集まっています。昨年1年間で、名古屋大学は、2,122名の留学生を受け入れています。また、この4年間で海外に留学する名大生は4倍に増え、去年は605名となりました。私たちの目標は、2020年までに年間1,000名の名大生を海外に送ることです。昨年、ホーチミンやジョグジャカルタ、北京やソウルで半年から1年留学した皆さんの先輩に会うことができました。

さて、なぜ国際化か。それは、君達名大生にあります。今朝、自宅から名大に来た人、手を挙げてみてください。名大生は、その70%が東海4県の出身です。この点から、君たちの多くが自宅から大学に通います。しかし一方で、君達の卒後の就職は大半が国際的な企業であり、君たちは、将来国際的な場で勇気と判断力を示すことのできる人材に育つ事を求められています。

もう一度聞きます。大学は何を学ぶ場か。私は思います。まず、自立を学ぶこと。自分の中に眠っている可能性を開花させること。そして多様な価値観をと文化を理解できる複眼的視点を持つ体験をする場であると。



自立するには、まず自宅が名古屋市内でも、下宿してください。1人前になるために、人間は孤独を体験する必要があります。海外に出て、孤独の中で、自分の本当の力、語学力、行動力を試してください。アインシュタインが言っています。「何かを学ぶためには、自分で体験する以上にいい方法はない」。海外での体験は、きっと君たちの将来を助けるものとなります。名古屋大学は、英語のほか、中国語、ドイツ語、フランス語の海外留学の機会があります。積極的に参加してください。専門に進めば、単位互換で長期に海外留学できる制度もあります。

さあ、大学に入ったら、君の重い錨を揚げよう。安全な港から船をこぎ出そう。自分の力で世界を探検しよう。自分の可能性を発見しよう。

皆さんの学生生活が、多くの出会いと、発見と、実り多い体験に満ちることを願って今日の祝辞とさせていただきます。入学おめでとう。



## 来賓祝辞（平成26年度大学院入学式）

豊田 章一郎 名古屋大学全学同窓会会長  
トヨタ自動車株式会社名誉会長



ただいまご紹介いただきました、名古屋大学全学同窓会会長の豊田でございます。本日は、名古屋大学大学院の入学式にお招きいただきまして、誠に有難うございます。全学同窓会を代表しまして、本日、大学院にご入学されました皆様に心よりお祝いを申し上げます。

さて、皆様にご入学されました名古屋大学は、創立以来、自由闊達な学風を誇り、豊かな人間性を持つ勇気ある知識人の育成を学術憲章に掲げております。この学風からは、4人のノーベル賞受賞者をはじめとして、科学、医学、人文、社会科学などの幅広い分野で、世界をリードする多くの研究者の方々を輩出しておられます。また、中部地区の基幹総合大学として、ものづくり中部、ものづくり日本を担う人材をはじめ、幾多の分野で、幅広く有為な人材を輩出してまいりましたことは、皆様もすでにご承知の通りでございます。

しかし、ご承知の通り、世界では、グローバル化とイノベーションが急速に進展し、日本は、産業・企業だけでなく、大学もグローバルな競争の真っ只中にあるわけでございます。

こうした中、濱口総長は「名古屋大学から Nagoya University」という濱口プランに従って、世界に通じる人材の育成や世界トップレベルの研究推進などをはじめとする大学の国際化を強力に進めておられます。

すでに、アジア地区を中心に世界70カ国以上の国々から留学生の方々がお見えになっていると伺っております。

このような留学生の積極的な受け入れをはじめ、海外の大学との連携拡大や海外拠点の整備、そして、日本の学生の国際性を育む「名大ならではの」、特色のある教育プログラムの実践などを精力的に進めていただいております。特に、昨年度から始まった、文部科学省の「研究大学強化促進事業」支援対象大学に名古屋大学は選ばれまして、京都大学、東北大学、そして東京大学と並び、トップ4つの研究大学の1つとして認定されまして、追加予算が、毎年配分されることになりました。大変喜ばしいことと存じます。今後さらに、大学の国際競争力の一層の向上に資するものと確信いたしております。

皆様には、決して現状に安住せず、このような名古屋大学の恵まれた環境を自分のものとして十分に活かし、「世界の中の日本」という視点に立って、日本を学び、世界に学ぶ謙虚な姿勢のもとに、大きな夢、高い目標、高い志をもって、新たな発想と行動で、それぞれの研究分野に挑戦して行っていただきたいと思っております。

そうした皆様一人ひとりの姿勢と行動が名古屋大学の国際競争力を高め、世界に開かれた魅力ある大学の創造に繋がっていくことになると思っております。

さて、名古屋大学全学同窓会は、平成14年10月に発足し、



設立後11年がたちました。当時全学同窓会を持っている大学は非常に少なく、名大では、いち早く全学同窓会を設立したわけでございます。その後東大などでも設立されました。

名大の全学同窓会には、すでに、国内には、関東支部、関西支部、そして浜松を中心とした遠州会の3つの支部がございます。また最近では、濱口総長の強いご意向もありまして、海外には、名古屋大学で学ばれた留学生の方々が中心となりまして、韓国、バングラデシュ、上海、タイ、北京、ベトナム、カンボジア、モンゴル、ウズベキスタン、台湾、ラオス、ミャンマー、インドネシアの13の支部を設立しております。

毎年10月に開催されるホームカミングデーでは、設立直後の海外支部の代表者をお招きして、歓迎交流会を濱口総長にご参加いただき開催しています。これらの名古屋大学の留学経験者の方々は、名古屋大学への思いが深く、大変感謝されております。今後名古屋大学がアジア地域との関係強化を図る際の拠点といたしまして、これらの同窓会支部との交流を積極的に進めているところでございます。

名古屋大学全学同窓会の準会員でございます皆様にも、今後留学などで、これらの支部と積極的に交流していただき、名古屋大学の国際的なネットワークを是非広げていただきたいと思っております。



私ども全学同窓会も、名古屋大学が、研究、教育、社会貢献の各方面で、日本はもとより、世界屈指の国際競争力を持った大学となるように皆様と一緒に活動してまいりたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

最後に、皆様方の学生生活が楽しく、充実したものになりますことを心から祈念いたしましてお祝いの言葉とさせていただきます。

本日は本当におめでとうございました。



## 来賓祝辞（平成26年度学部入学式）

豊田 章一郎 名古屋大学全学同窓会会長  
トヨタ自動車株式会社名誉会長



ただいまご紹介いただきました、名古屋大学全学同窓会会長の豊田でございます。本日は、名古屋大学の入学式にお招きいただきまして、誠に有難うございます。全学同窓会を代表しまして、本日ご入学されました皆様に、心よりお祝い申し上げます。

さて、今、皆様は、大変フレッシュな気持ちで、この場に集まっておられると思います。私も、先ほどから、緊張の中にも、若さと希望にあふれた皆様のお顔を拝見いたしまして、非常に爽やかな気持ちが致しております。これから新たに大学生活に入られる皆様は、大きな夢や期待を胸



に、新しいことにどんどんチャレンジして行こうと思っておられることでしょう。

名古屋大学には、総合大学として、自然科学から社会科学、人文科学まで、いずれも全国トップレベルの教授陣を擁し、充実した魅力ある講座がそろっております。さらに、創立以来、独創性豊かで、自由闊達、清新な学風は、良き伝統として、今日まで脈々と受け継がれてきております。

そして現在、濱口総長のリーダーシップの下、「名古屋大学から Nagoya University」という濱口プランに従って、世界に通じる人材の育成や世界トップレベルの研究推進などをはじめとする大学の国際化を強力に進めておられます。特に、昨年度から始まった、文部科学省の「研究大学強化促進事業」支援対象大学に名古屋大学は選ばれて、京都大学、東北大学、そして東京大学と並び、トップ4つの研究大学の1つとして認定されまして、追加予算が、毎年配分されることになりました。大変喜ばしいことと存じます。

このように名古屋大学は、皆様の期待に十分応えてくれる大学であると確信しております。

皆様も、決して現状に安住することなく、名古屋大学の恵まれた教育環境を自分のものとして十二分に活かし、「世界の中の日本」という視点に立って、常に視野を広く持ち、高い目標を掲げて行動し、知力、体力、気力の充実を図って行っていただきたいと思っております。



とくに、将来の日本を担うリーダーとしての役割が期待されております皆様には、学生生活を通して、高い志や、他に謙虚に学ぶ姿勢、そして思いやりの心といったもの大切さを、しっかりと掴み取っていただきたいと思っております。

さて、名古屋大学全学同窓会は、平成14年10月に発足し、設立後11年が過ぎております。すでに、国内には、関東支部、関西支部、および浜松を中心とした遠州会の3つの支部がございます。

また、海外には、名古屋大学で学ばれた留学生の方々が中心となりまして、韓国、バングラデシュ、上海、タイ、北京、ベトナム、カンボジア、モンゴル、ウズベキスタン、台湾、ラオスに加え、昨年度はミャンマー、インドネシアを立ち上げ合計13の支部を設立しております。今後名古屋大学がアジア地域との関係強化を図る際の拠点として、これらの同窓会支部との交流を積極的に進めているところでございます。

皆様は、今日から名古屋大学全学同窓会の準会員となりますが、皆様にも、今後留学などで、これらの支部と積極的に交流していただき、名古屋大学の国際的なネットワークを是非広げていただきたいと思っております。



私ども全学同窓会も、名古屋大学が、研究、教育、社会貢献の各方面で、日本はもとより、世界屈指の国際競争力を持った大学となるように皆様と一緒に活動してまいりたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

最後に、皆様のこれからの学生生活が楽しく、充実したものになりますことを心から祈念いたしましてお祝いの言葉とさせていただきます。

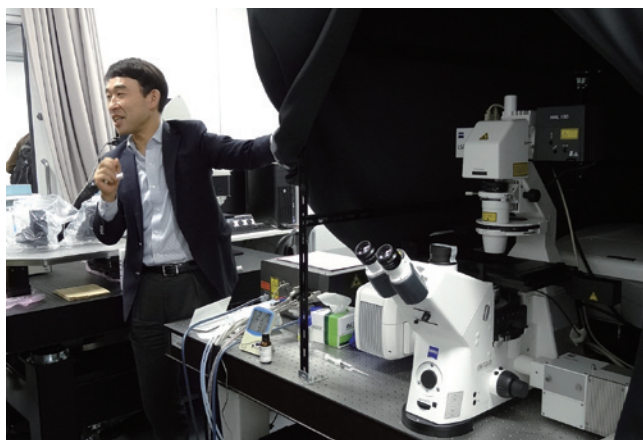
本日は本当におめでとうございました。



## 名古屋大学オープンレクチャー2014を開催

名古屋大学オープンレクチャー2014が、3月21日(金)、東山キャンパス各施設において開催されました。本レクチャーは、本学の研究者が先端研究について少人数の講義スタイルで紹介する場として開催しており、当日は時折強い風が吹く中、160名の参加がありました。

参加者は理学南館の坂田・平田ホールで本学の概要説明



研究室で顕微鏡の紹介をする東山教授

を聞いた後、各講義室で講義を受けました。講義では趣向を凝らした実験や研究室見学を行うものもあり、参加者からは、「人文社会研究が単なる記録や座学ではなく、行政などの問題解決につながる」、「今後のプラズマの活用に興味をわいた」、「将来医療に関わることを志す者として役立てたい」といった感想がありました。参加者アンケートでは95%の方が、「わかりやすかった」と回答し、96%の方は「理解が深まった」と答え、一般の方に先端研究や研究現場を理解してもらう良い機会となりました。

なお、今回開講された講義は「植物の生殖戦略と植物ホルモンのななし」(上口美弥子生物機能開発利用研究センター准教授)、「小児血液病における原因遺伝子探しのななし」(小島勢二医学系研究科教授)、「無形民俗文化遺産の継承と人類社会の未来のななし」(佐々木重洋文学研究科准教授)、「健康のための栄養と運動のななし」(下村吉治生命農学研究科教授)、「光と色のななし」(関 隆広工学研究科教授)、「花の本質を知るはなし」(東山哲也トランスフォーマティブ生命分子研究所教授)、「プラズマで‘がん’を治すはなし」(堀 勝工学研究科教授)の7つでした。

## 平成26年度科学技術分野の文部科学大臣表彰受賞者が決まる

平成26年度科学技術分野の文部科学大臣表彰受賞者が決定され、本学から、科学技術賞で2件、若手科学者賞で2件が選出されました。

この表彰は、科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者について、その功績を讃えることにより、科学技術に携わる者の意欲の向上を図り、我が国の科学技術水準の向上に寄与することを目的としてお

受賞者は以下のとおりです。

### 科学技術賞

「ガス中ナノ観察研究のための反応科学超高压電子顕微鏡の開発」

田中信夫 エコトピア科学研究所長・教授

荒井重勇 エコトピア科学研究所特任准教授

「全反射陽電子回折とそれによる固体表面物性の研究」

一宮彪彦 名誉教授

り、「科学技術賞(開発部門・研究部門・科学技術振興部門・技術部門・理解増進部門)」、「若手科学者賞」、「創意工夫功労者賞」、「創意工夫育成功労学校賞」の各賞が設置されています。

なお授賞式は、4月15日(火)に文部科学省において執り行われました。

### 若手科学者賞

「分子骨格の柔軟性と元素の多様性を活かした $\pi$ 電子材料の研究」

齊藤尚平 物質科学国際研究センター助教

「月周回衛星かぐやデータを用いた月の進化過程に関する研究」

諸田智克 大学院環境学研究科助教



## 第44回経営協議会を開催

第44回経営協議会が、3月18日(火)、鶴舞地区の鶴友会館において開催されました。

会議では、濱口総長からあいさつの後、平成26年度学内予算、平成26事業年度における長期借入金の借入れ及び償還計画等、平成25年度運営費交付金（業務達成基準適用事業）執行状況、人事関係諸制度の見直し、平成26年度計画



会議の様子

及び平成26年度執行部体制等について、総長、各担当理事及び副総長から説明が行われ、審議の結果、了承されました。

次いで、次期経営協議会委員、名古屋大学海外拠点認定規程の制定、平成26年度入学者選抜実施状況、名古屋大学基金、リーディング大学院推進機構本部、事務組織及び広報誌について報告が行われました。

外部委員の方々からは、名古屋大学基金について意見交換が行われ、貴重なご意見が寄せられました。

なお、同日には第16回総長選考会議も開催され、次期総長の選考について審議されました。

# 電子状態計算に基づいた材料科学

松永 克志 大学院工学研究科教授

## 計算材料科学

現代の私たちの生活は、携帯電話やスマートフォンを始めとした電子機器、自動車、高度医療を支える医療器具などのおかげで、たいへん便利で豊かなものとなってきました。それらの機器には優れた特性を持った数多くの材料が使われています。つまり、材料無くして、今の私たちの豊かな生活は実現できないといっても過言ではありません。したがって、材料に関わる研究者や技術者には、より優れた特性を持った材料を開発していくことが常に求められています。

材料にはアボガドロ数 ( $6.0 \times 10^{23}$ ) 個もの原子が含まれており、それらの原子は特定の規則性を持って3次元的に並んでいます。各原子の周りには原子番号と同じ数だけの電子が存在しており、それらの電子は、周囲の原子の種類や並び方によって異なる振る舞いを示します。材料の持つさまざまな性質は、この電子の振る舞い（電子状態）によって決まります。したがって、電子状態を明らかにすれば、材料の構造や特性の起源を理解できるだけでなく、どのような原子の組み合わせでどのような材料特性が発現するかを予測できると考えられます。このような観点に基づいて、材料中の電子状態を理論的に明らかにし、最終的には材料を設計するための指針にしようというのが私の研究している計算材料科学です。

## 材料プロセス設計への発展

最近の計算機性能の向上、計算理論や電子状態理論の発展のおかげで、複数の元素からなる化合物の電子状態や、材料の表面や界面のような複雑な構造における安定な原子配列や電子状態を理論的に解明することが可能となってきました。しかし電子状態計算の多くは、基本的には絶対零度の温度条件での電子状態を取り扱うため、直接的に有限温度での材料現象を取り使うことができません。一方で、材料研究では、所定の温度や圧力、化学組成の条件下で材料がどのような構造や性質を示すかを明らかにしなければなりません。したがって、電子状態計算もしくはその計算結果を、実際の温度等の化学的環境下での材料解析に結び付ける手法が必要です。そこで私たちの研究グループでは、材料合成でよく用いられる高温環境や水溶液環境における材料構造の安定性を評価する手法を開発しています。例として、生

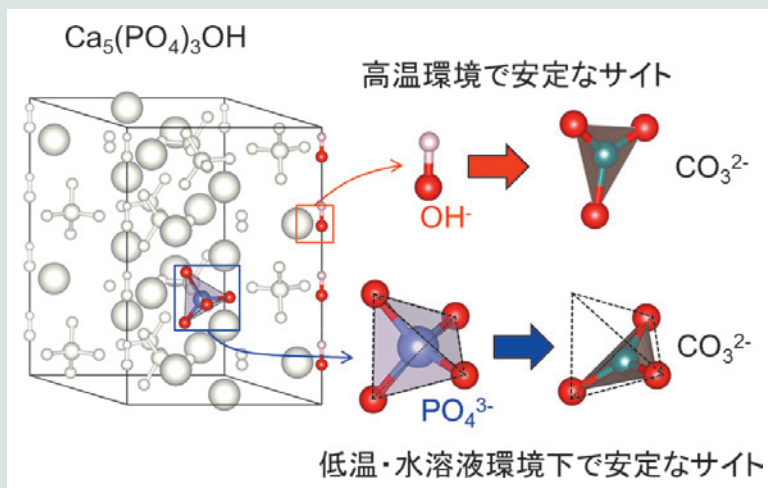


図1 ハイドロキシアパタイト中の炭酸イオンの安定構造



体材料として用いられるハイドロキシアパタイト ( $\text{Ca}_5(\text{PO}_4)_3\text{OH}$ ) に関する最近の研究を紹介します (図1)。ハイドロキシアパタイトは生体骨に含まれている無機成分であり、人工骨材料として期待されています。生体骨中のハイドロキシアパタイト成分は純粋なものではなく、空気中や体液中にも含まれる炭酸イオン ( $\text{CO}_3^{2-}$ ) やその他の不純物イオンが含まれており、生体骨の機械的性質や生化学的性質に重要な役割をしていることが指摘されています。そこで炭酸イオンを含むハイドロキシアパタイトの電子状態計算と構造安定性の詳しい解析を行ったところ、炭酸イオンの存在場所やその安定性が周囲の化学的環境に依存すること、さらにはそのメカニズムを明らかにすることに成功しました (図1)。つまり、材料の置かれた環境で最も安定な材料構造と電子状態を計算予測できるようになっており、このような研究を通して、望みの材料構造や特性を得るための実験条件をあらかじめ探索することも可能となります。

### 実験計測との連携

電子状態計算は、電子顕微鏡等の原子レベルの分解能を持つ最新の計測実験と連携することで、新しい材料現象の発見やその起源の解明へとつながる可能性があります。図2は、酸化チタン上に吸着した金と白金原子の吸着位置に関する最近の研究例を示したものです。酸化チタンは光触媒として知られる材料で、その表面に貴金属原子を担持させることで、有害物を分解する触媒活性が高まることが知られています。本研究の計算解析から、金と白金では吸着位置が異なること、さらには吸着メカニズムが異なることがわかってきました。これらの原子配列は電子顕微鏡でも観察され

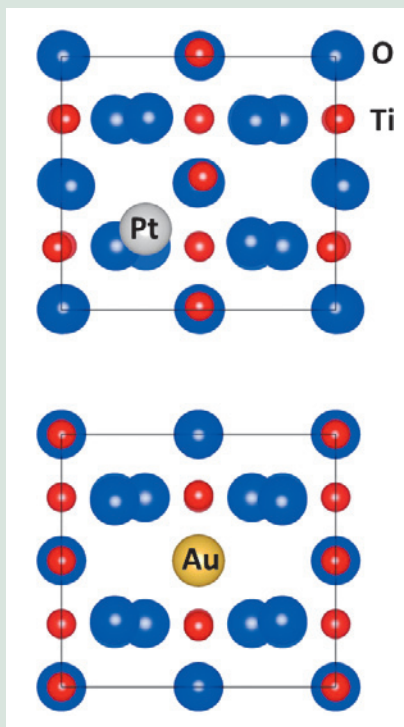


図2 酸化チタン表面での金 (Au) および白金 (Pt) の安定吸着位置

ており、今後、触媒活性の本質の理解へと結び付けていきたいと考えています。

以上のように、私たちの研究は基礎研究そのものですが、計算材料科学の適用範囲もこの10年ほどの間に、金属や半導体、セラミックス、生体材料などと飛躍的に広がっています。近い将来、私たちが電子状態計算に基づいて材料を設計し、実際に開発に成功するように取り組んでいきたいと考えています。

1997年京都大学大学院工学研究科博士後期課程修了、同年財団法人ファインセラミックスセンター研究員、2001年東京大学助手、2005年京都大学助教授を経て、2011年より現職。  
 モットー：楽しむ気持ちを持って取り組むこと。

まつなが かつゆき



疾患マーカーの探索―タンパク質上に形成される修飾付加体の解析から

私たち人間をはじめとする生物は、生命活動を維持するために酸素を必要とします。取り込まれた酸素のほとんどはエネルギーを産生するために利用されますが、ごく一部は反応性の高い活性酸素種に変換されてしまいます。通常私たちの体の中には、活性酸素種のレベルを保つ機能が備わっていますが、加齢などや生活習慣などによりそのバランスがくずれてしまうことがあります。こうしてできた活性酸素種は、私たちの体を構成しているタンパク質や脂質などに酸化的なダメージを与えてしまうことが知られています。特に脂質は、活性酸素種の影響を受けやすく、酸化・分解反応を受けることにより、アルデヒドなどの化学物質などが生成します。例えば、「加齢臭」の原因物質として話題になった2-ノネナールという物質も、脂質が酸化反応を受けて生成されるアルデヒドの一種です。

脂質からできるアルデヒドの中には反応性の高いものが多く存在し、タンパク質などに対してさらに反応することにより、様々なアルデヒドによる修飾構造がタンパク質分子上に形成されます。

このようなタンパク質に対する修飾は、生活習慣病などの疾病や加齢などによっても引き起こされることが明らかになりつつあり、生体内のタンパク質分子上に形成される多種多様な修飾構造が、その生体内の状態を反映したよい指標となるものと考えられます。最近では、こうした修飾構造が疾患マーカーとしてだけでなく、病気の発症や進展に関わる可能性も示唆されています。そこで私たちは、タンパク質分子上に形成される様々な修飾構造複合体（タンパク質アダクトーム）を解析することにより、生体内で起こっているダメージを把握できるのではないかと考え、質量分析装置を利用した網羅的な解析を行っています。疾患モデル動物や患者の血液サンプルなどから抽出したタンパク質について解析を行うことにより、疾患に特徴的なマーカーとなりうるタンパク質の修飾構造を見つけ出すことが期待されます。こうしたアプローチにより、病気の診断や早期発見、さらには治療や予防などへの応用に貢献できるよう、日々研究に励んでいます。

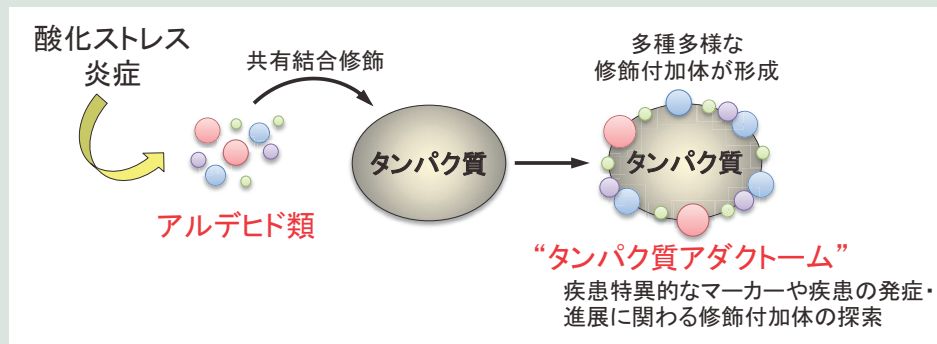


図1 タンパク質分子上に形成される修飾付加体複合体の網羅的解析  
酸化ストレスや炎症などの条件下において脂質の酸化により生成されるアルデヒド類は、タンパク質に対して共有結合修飾することにより、多種多様な修飾構造複合体（アダクトーム）が形成されます。アダクトームの網羅的な解析を行うことにより、疾患マーカーや発症・進展に関与する修飾付加体の同定が期待されます。

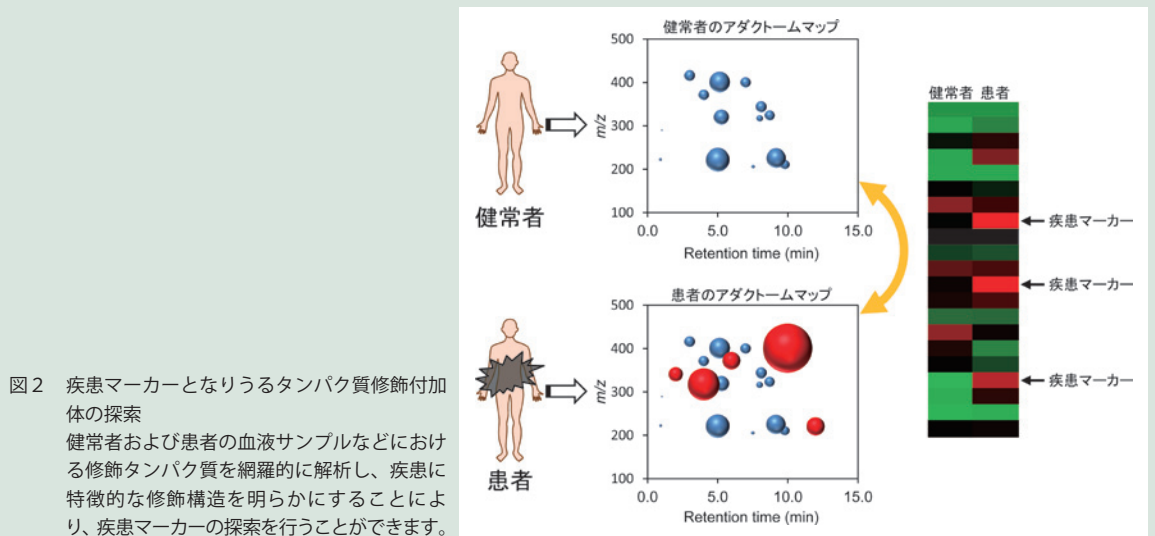


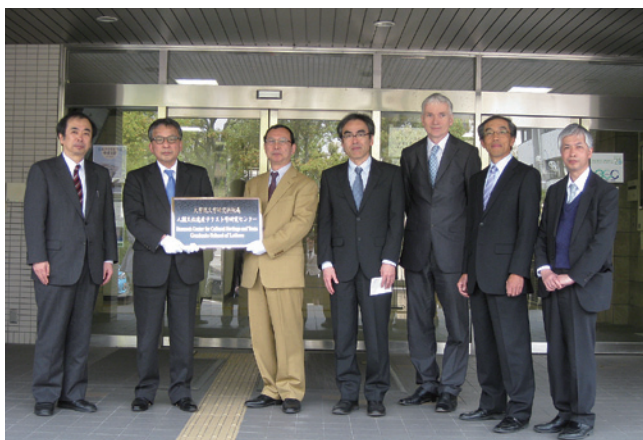
図2 疾患マーカーとなりうるタンパク質修飾付加体の探索  
健康者および患者の血液サンプルなどにおける修飾タンパク質を網羅的に解析し、疾患に特徴的な修飾構造を明らかにすることにより、疾患マーカーの探索を行うことができます。



## 文学研究科附属人類文化遺産テキスト学研究センターの看板上掲式を挙

●大学院文学研究科

大学院文学研究科は、4月3日(木)、同研究科棟玄関において、同附属人類文化遺産テキスト学研究センターの看板上掲式を挙りました。同センターは、4月1日(火)付けで同研究科の附属施設として新設されたもので、21世紀COEプログラム「統合テキスト科学の構築」及びグローバルCOEプログラム「テキスト布置の解釈学的研究と教育」



記念撮影

などにより同研究科で推進してきたテキスト学研究のさらなる発展を目指し、学内外の研究組織との連携及び大学院教育のための中核的拠点としての役割が期待されます。

上掲式は、鮎京理事、藤井理事、木俣文学研究科長、阿部同センター長、周藤芳幸文学研究科教授、佐久間淳一同副研究科長、ヨヘム・アルバート・カール ベルリン自由大学教授並びに多数のセンター関係者が出席して行われました。

はじめに、木俣研究科長から、テキスト学という研究領域における独創的で斬新な定義を提案し、研究活動を通じてそれを形にしていこうという同センターの目標が述べられました。

続いて、阿部センター長から、人類の豊かな文化遺産を普遍的なテキストとして探究する学術の挑戦が、人文学の社会への貢献となるべく、同センターをその実践と交流のフォーラムにしたい、と抱負が語られました。

その後、鮎京理事から、本学の人文科学分野の特色として高く評価されているテキスト学研究が、新たな段階に入ることへの喜びが祝辞として述べられた後、関係者による看板の上掲が行われ、同センターの今後の発展を祈念しました。

## 3大学合同シンポジウム及び合同学術協力会議を開催

●大学医学系研究科

大学院医学系研究科は、3月18日(火)から3月20日(木)の間、鶴舞キャンパスにおいて、アデレード大学健康科学部、フライブルク大学医学部との合同国際シンポジウム及び合同学術協力会議を開催しました。

国際シンポジウムでは、高橋医学系研究科長のあいさつの後、腫瘍学分野、神経科学分野、精神医学分野におい

て、3大学から合計11名による研究発表が行われ、多くの教員・学生が参加し熱心に耳を傾けました。

合同学術協力会議では、医学部生の交換留学、大学院生の共同研究指導、共同研究の可能性を探る大学間協力体制について活発な意見交換が行われました。その後、ケント・アンダーソン アデレード大学副学長とジャスティン・ベルビー アデレード大学健康科学部長、ハンス・ヨハン・シーバー フライブルク大学学長とマイケル・ヴィルシング医学部長代理、濱口総長と高橋研究科長の6名により医学博士号授与に関する共同教育プログラム等を含む覚書に調印が行われました。このプログラムにより、2大学による論文共同審査が行われ、医学博士号に相当する業績を修めたことを証明する学位記または学位証明書が各大学から授与されることが可能になり、これから海外で活躍する若手研究者にとって活躍の門戸が広がることが期待されます。

この3日間の国際シンポジウムと合同学術協力会議を通じて、3大学が連携を深め、本学の国際化推進に大きく寄与する成果が得られました。



覚書調印の様子

# 医学部附属病院アジア内視鏡トレーニングセンター看板上掲式を挙

●医学部附属病院

医学部附属病院は、3月28日(金)、同附属病院アジア内視鏡トレーニングセンター看板上掲式を挙行しました。式典には濱口総長、高橋医学系研究科長、石黒病院長、後藤アジア内視鏡トレーニングセンター長が出席しました。

同センターは、アジア地域の医師や看護師等の医療従事者に対し、内視鏡に係る診断、治療の手技等を指導及び教

育することにより、アジア地域における医療の発展、向上に寄与するため、設置されたものです。

本学では、「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業 (Global30 プログラム)」を中心に、大学の国際化を目指す取り組みを推進しており、同センターはアジア各国の主要大学との学術連携や海外拠点を活用した研究・支援を通じてアジアの発展に貢献するという目的も有しています。

同センター設置の主体となった消化器内科では、これまでもベトナムのフエ医科薬科大学との共同研究等を通じた交流があり、ベトナムからの要請もあって、同センター設置に先立ち、昨年9月、内視鏡の診断や治療手技等を指導、教育することを目的とした、トレーニングセンターをフエ医科薬科大学に設置、現地に医師・看護師を派遣して実技指導等を実施するという実績を残しています。

今回、新たに設置するセンターでは、ベトナムのみならず、他のアジア地域からの医師・医療従事者を受け入れ、内視鏡診断、治療手技等を指導し、自国の医療技術の向上や新たな医療人の育成等を通じてアジア国民への健康増進に寄与することがこれまで以上に期待されています。



センター看板上掲式の様子

# 「学術合同研究会『日本言語文化研究』」を開催

●大学院国際言語文化研究科

大学院国際言語文化研究科は、3月29日(土)、東華大学延安西路キャンパスにおいて、東華大学との学術合同研究会「日本言語文化研究」を開催しました。

当日は、林嶽東華大学外語学院書記、許慈恵上海外国語大学学院長、福田国際言語文化研究科長のあいさつに始まり、1日で合わせて12タイトルの講演を行いました。

中国側の講演は、すべて日本語により行われ、同研究科修士生など同研究科にゆかりのある方たちが、「上海外国語大学日本語専攻の特色作り」、「タスク型の国際交流と創新型的な教育実践」等の講演を行いました。

同研究科からは、全体テーマを「日本の言語と文化を語る」とし、8名の教員が各自の専門分野の講話を行いました。

今回の企画は、中国の優秀な研究生・留学生希望者を集めるための広報目的もあり、講話の中で各講座、コースの説明も行いました。また、最後の講演テーマである、「名古屋大学における研究生と院生の受け入れ」の中では、本学ホームページをプロジェクターで映し出し、研究生になるための志願方法や入学後の研究生活についての説明、同研究科のG30プログラムについての紹介等を行いました。日本へ留学希望の学生から質疑が多く出されました。

なお、同企画の前日には、福田研究科長ほか教員3名が、名古屋大学上海事務所を訪問しました。劉蕾同事務所副代表には、上海事務所が同研究科の上海での活動拠点として重要な意味を持つことを今後の展開への期待とともに説明しました。



講堂内の記念撮影



## 中央図書館の老朽対策等基盤整備事業竣工式を実施

●附属図書館

附属図書館は、4月7日(月)、中央図書館玄関前において、老朽対策等基盤整備事業竣工式を実施しました。

式典では、濱口総長からのあいさつ、青木施設整備課長による概要説明、佐野附属図書館長による謝辞に続き、総長、図書館担当の鮎京理事、財務担当の藤井理事、施設設備担当の竹下事務局長、佐野館長によるテープカットを行



テープカットの様子

いました。その後、出席した部局長等を交えて、改修箇所を中心に見学を行いました。

今回の整備では、耐震補強と内外装の全面改修を行いました。外観は赤レンガ基調から豊田講堂を意識した白基調のものへと一新しました。館内は、グループ学習スペースと研究個室を増やし窓際の閲覧席をリニューアルするとともに、にぎやかな空間と静かな空間を明快にゾーニングし、それに合わせてシンプルでわかりやすいサインを設置しました。これにより、快適な研究・教育学修支援のための環境が整いました。また、本学にゆかりのある著名人の著書を集めた「ゆかり交流ラウンジ」(3階)を拡充しました。

さらに、4階にあった展示室を2階入口横に移転し、機能拡張してイベント開催が可能な「ビブリオサロン」としました。「ビブリオサロン」は、来館者の知的交流の場として、また地域貢献の場として利用が期待されます。このサロンでは新入生歓迎企画として、本学が所蔵する貴重書等を展示した「知の森へようこそ2014」を4月7日(月)から24日(木)までの間開催し、新入生を中心に多くの方が足を運びました。

## 第1回神経回路国際シンポジウム

●博士課程教育リーディングプログラム「グリーン自然科学国際教育研究プログラム」

博士課程教育リーディングプログラム「グリーン自然科学国際教育研究プログラム」は、3月24日(月)、理学南館坂田・平田ホールにおいて、第1回名古屋大学神経回路国際シンポジウム「-Decoding principle of neural circuits using model animals- 神経回路による情報処理を読み解く」を開催しました。同シンポジウムは、本学に新しく発



参加者の集合写真

足した、脳神経回路研究拠点のキックオフミーティングとして脳科学の最先端を広く紹介し、本学から新たな潮流を生み出して世界に発信することを目的に開催されました。

シンポジウムでは、アメリカでオバマ大統領が主導する脳研究の国家プロジェクト「BRAIN Initiative」で活躍中のホンキン・ゼン アレン脳科学研究所シニアディレクター、若手研究者としてアメリカで活躍する朝比奈健太カリフォルニア工科大学博士、ハネス・ビュロー アルベルト・アインシュタイン医学校准教授による講演や意見交換が行われました。国内からは、神経科学を数理学と融合させた理論研究の第一人者である石井 信京都大学教授や、グリアと神経細胞の相互作用研究を世界的にリードする鍋倉淳一生理学研究所教授、また本学からは森 郁恵理学研究科教授、小田洋一同研究科教授、上川内あづさ同研究科教授による講演が行われ、神経回路による情報処理をどのように読み解くかを、講演後の質疑応答やその後の懇親会において、活発に意見交換が行われました。全国から約90名の参加があり、若手の活躍が目立つ、非常に活気のあるシンポジウムとなりました。第2回シンポジウムは9月に開催予定です。

## 「実世界データ循環学リーダー人材養成プログラム」オープニングセレモニーを開催

●博士課程教育リーディングプログラム「実世界データ循環学リーダー人材養成プログラム」

博士課程教育リーディングプログラム「実世界データ循環学リーダー人材養成プログラム」は、4月8日(火)、IB電子情報館において、オープニングセレモニーを開催しました。同プログラムは大学院情報科学研究科、工学研究科、医学系研究科、経済学研究科の大学院生を対象にした5年一貫制の学位取得プログラムであり、情報科学、工学、医



プログラム履修生及びプログラム担当者の集合写真

学、経済学の分野に跨り、実世界データの「取得、解析、実装」を扱う新しい学問領域である「実世界データ循環学」を身に付け、社会的な価値の創造を担う人材の育成を目的としています。

オープニングセレモニーでは、山本理事による開会のあいさつの後、プログラムコーディネータの武田一哉情報科学研究科教授がプログラムの内容説明を行いました。その後、4月からプログラム履修生となった第1期生のプログラム証書の授与式を行いました。証書を受け取ったプログラム履修生は一人ずつプログラムに対する抱負や意気込みを話しました。続いて、同プログラムにおいて研究・教育を担う特任教員が、プログラム履修生に対して、各自の経歴や研究の紹介を行いました。

セレモニーは、新しい学位プログラムの構築に向けて、関係者が今後より一層の協働を図っていく上で非常に良い機会となりました。各部局の教員に加えて、最先端の情報機器や第一線で活躍する若手の特任教員に囲まれる環境の中で、広く社会で活躍できる博士人材が育成されることが期待されます。

## 第99回防災アカデミーを開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは、3月24日(月)、減災館1階減災ホールにおいて、第99回防災アカデミーを開催しました。今回は、松澤 暢東北大学大学院理学研究科地震・噴火予知研究観測センター教授による講演「東北地方太平洋沖地震を何故予見できなかったのか?」が行われ、130名を超える参加がありました。



地震発生のしくみを解説する松澤教授

講演ではプレート境界型地震についての基本的な説明から始まり、有力な学説である「アスペリティ・モデル」について詳しい説明がされました。一方で、平成23年3月に発生した東北地方太平洋沖地震のような巨大地震を予測することは未だ困難であり、地震研究の更なる発展が必要であることも主張しました。従来、古い海洋プレートが沈み込む場合、境界面では大陸プレートとの固着が弱く、マグニチュード9の地震は発生しないと考えられてきました。しかし、東北地方太平洋沖地震の発生はその考えとは合いません。これに対して松澤教授は、数百年に1度発生する巨大地震のメカニズムは、100年程度の地震の観測データでは解明できないこと、今後もデータを収集しモデルの信頼性を高める必要があると述べました。

最後に、東北地方太平洋沖地震の余震はまだ数年続く可能性があり注意の必要があることや、地震が発生した際に心がけてほしいことが説明されました。質疑応答や議論では、市民が地震に対する科学的知識を持つだけでは命は守れず、沿岸部で大きな揺れが起これば直ちに避難する習慣を身に付けることが重要であるとの意見が出ました。



## 第100回防災アカデミーを開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは、4月11日(金)、減災館1階減災ホールにおいて、第100回防災アカデミーを開催しました。今回は社会安全研究センター長である河田恵昭関西大学社会安全学部教授による講演『「国難」災害を迎え撃て!』が行われ、165名の方々の参加がありました。

講演では、高齢化や都市化等により日本の災害脆弱性が



講演する河田教授

年ごとに増加していること、その一方で地球温暖化の進行や環太平洋地震・火山帯の活発化によりハザード(自然の外力)そのものも増加していることが説明され、日本において一刻も早く「減災社会」を実現することの必要性が述べられました。特に「国難」となる災害として、「首都直下地震」と「南海トラフ巨大地震」を取り上げ、これらの発生が日本社会の衰退につながる危険性を指摘しました。「首都直下地震」は都市固有の脆弱性により被害が甚大となる災害であり、首都機能の維持と経済被害軽減が最優先であると述べました。一方の「南海トラフ巨大地震」は、地震ハザードの大きさが甚大な被害をもたらす災害であり、人命救助・救援と地方の壊滅を阻止することが最優先であると述べました。さらにこれらの「国難」に対応するためには、災害発生前の対応をプログラム化し習熟すること、対応の意思決定過程を可視化し共有すること等の社会制度的対応も重要であると述べました。

質疑応答では、連動型地震における連動のタイミングの問題や地震予知研究のあり方等について質問があり、河田教授による丁寧な回答が行われました。

## ICCAE2013年度第6回オープンセミナーを開催

●農学国際教育協力研究センター

農学国際教育協力研究センター(ICCAE)は、3月24日(月)、農学部第7講義室において、2013年度第6回オープンセミナーを開催しました。

今回は、外国人客員准教授のステラ・ムコヴィ ケニア・ナイロビ大学地理環境学科上級講師により「人口の変化、社会経済条件と土壌侵食の関係：ケニアのニヤンド地方の



講演するステラ客員准教授

事例」と題して行われました。ビクトリア湖東岸に近いニヤンド地方では、1960年代以降、土壌侵食がますます広がり、今では民家のすぐ近くまで侵食され、生活が厳しくなっています。貧困が広がるこの地方では男性より女性の人数が多い、一方で、紅茶産業等農業関連産業が発展している隣接のケリチョウ地方では女性より男性の方が多く、1969年以降の人口センサスから明らかとなりました。ニヤンド地方では個々の農民がNGOの研修で知った対策技術を試みっていますが、まだ面的な広がりになっていません。この要因として、自然条件に加え、元々遊牧民族で独立性の強いルオ族の特徴の影響が示唆されました。

参加者は学外も含め20名弱でしたが、人口の推移や年齢構成やジェンダーも含めた社会経済条件の影響について議論を深めることができました。

## ICCAE2013年度第7回オープンセミナーを開催

●農学国際教育協力研究センター

農学国際教育協力研究センター（ICCAE）は、3月24日（月）、野依記念学術交流館1階において、2013年度第7回オープンセミナーを開催いたしました。

今回は「基礎研究 X 国際協力」というテーマのもと、芦荻基行生物機能開発利用研究センター教授、槇原大悟ICCAE 准教授による講演が行われました。



講演する芦荻教授

セミナーでは、「研究は楽しい。もし、基礎研究の成果で社会に貢献できればどんなに幸せだろう。だけど社会貢献ってむずかしそう。でもチャレンジしたい！国際協力をもっと進めたいけど、そのためにはもっと基礎研究が必要だ」というような想いを持った研究者たちが開始したWISH（Wonder rice Initiative food Security and Health）プロジェクトについての説明、プロジェクトとして行っているイネ遺伝子研究（基礎研究）や研究を基に作出中のWISH イネシリーズについてや、WISH プロジェクトで作出したイネのケニアでの試験栽培及び適応品種の選抜、普及についての説明が行われました。

当日は、学内外から100名近い参加者が集まり、WISH プロジェクト及び国際協力の分野について関心の高さがうかがえるセミナーとなりました。



## キャンパスを遠くから眺める

遠藤 斗志也 大学院理学研究科教授

平成元年12月に本大学理学部化学教室の生物化学講座を担当することになってから24年、定年まで5年を残してこの3月に本学を去ることとなりました。その間スタッフ、学生さんに恵まれ、また化学教室や理学部の教職員の方々のご支援もあり、「タンパク質の一生と細胞がミトコンドリアをつくる仕組み」について、大きく研究を発展させることができました。

教育研究以外では、グローバル30プログラムを中心に名古屋大学の国際化に関わったことや、世界的にも珍しい大学構内の地下鉄名古屋大学駅開業にあたって、地下鉄走行による磁場変動問題解決のために名古屋市交通局と共同作業を行ったことが、印象に残ります。特に後者は補償交渉という性格上、開業にあたって打ち上げを共にすることもありませんで

したが、交通局の皆さんが理論、実測、模型による検証など、あらゆる手段で磁場変動の事前予測とその解決に向けて真摯に働いてくださったことに感銘を受けました。

着任時はみずぼらしかった理学部の建物もいまでは美しく改修され、また建築デザイン的にも注目される機能的な建物がキャンパスのあちこちに建てられました。一方で農学部周辺には、いまでもアオサギやカワセミを見かけることができる自然が残っています。美しさと機能が同居するキャンパスを去るのは何とも残念ですが、一箇所に留まらないのも研究者のあるべき姿と思い、遠くから懐かしく本大学を眺める日々です。



## 大幸保健学科キャンパスの自然

鳥橋 茂子 大学院医学系研究科教授

名古屋大学ですごした20年余りの内、最後の8年間は大幸保健学科で教鞭をとりました。同じ医学系研究科でも鶴舞と大幸ではキャンパスの雰囲気は異なりますが、自然については大幸キャンパスでのことが印象に残っています。

まず、敷地が広く、グラウンドからは名古屋ドームの屋根が望まれ、運動する学生達の掛け声が聞こえてきました。建物も低く、こじんまりしていて学生や職員の間には家族的な雰囲気がありました。ただ、使われなくなった旧本館が入り口にあり、敷地や建物の美観を損ねているのが残念です。

敷地内では四季折々に咲く花や樹木の新緑、紅葉を身近に見ることができました。特に春の桜は絶景で、研究室の窓から眺める桜は独り占めするにはもったいない程の美しさでした。そこで学生たちと桜の下で何回か花見をしました。また

花の手入れをしてくださる教員もいて職員が大幸の緑を大切にしています。大幸会館に続く東側の大きな木立には鳥も多く、さらに夕方になるとどこからともなくコオモリが現れ、夕闇の中で乱舞していました。都会ではめったに見られない青大将やアナグマも住んでいて、これが目の前に親子づれて現れた時には度肝を抜かれたものです。このように大幸地区には豊かな自然が残っています。大学変革の嵐の中でもこの豊かさを失わないで欲しいと心から願っています。



## 記録の重要性

中島 務 大学院医学系研究科教授

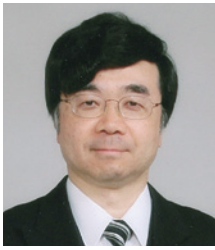
名大名誉教授にさせていただき、これからはOBの立場から、名大の益々の発展に私なりに少しでも貢献できればと考えています。

退職の直前には、名大OCWのご協力により、最終講義や名大医学部戦没者名簿につき映像によるメッセージを残しました。医学部戦没者名簿については、2013年秋の医学部学友大会で南海トラフ大地震の話と福和伸夫先生にさせていただくことになり、大地震も戦争も一度に多くの人が亡くなる点では同じ、戦争で亡くなられた方の名簿はあるのかという観点で作成が予定されました。しかしながら、すでに終戦から70年近くたっており、医学部全体の戦没者名簿の作成は不可能でした。わかった範囲の文書資料を退職の日である3月31日に名古屋大学文書資料室の堀田先生に直接渡しました。医

学部以外でも戦没者名簿がある部はないと聞きました。後世のために記録をしっかり残すことの重要性を痛感しました。

研究の成果は、論文に表れます。論文は、キーワードで検索され、引用されれば後世の研究者に役に立ったといえます。これも記録として論文を残しているかどうかです。引用がどれくらいあったかも記録として残ります。文字（図表含む）として残し、継承され、それがたたき台となってまた新たな記録（論文）ができる。研究の流れの本流は文字にあると思います。





## 良き若人に囲まれ、研究三昧、遊び三昧

生田 幸士 大学院工学研究科教授

私は平成22年春に東大に異動しましたが、このたび名古屋大学から名誉教授の称号を拝受いたしました。名古屋大学の皆様のご高配に、心より感謝の意を表します。

平成6年6月、大学院重点化の先鞭を切って機械系専攻が改組し、日本初のカタカナ名の専攻であった「マイクロシステム工学専攻」が創設されました。医療やバイオ分野のマイクロマシンを研究する「医療マイクロ工学講座」の初代教授として40歳で呼んでいただきました。着任後、先輩教授らから設置審での苦労話を拝聴し、身の引き締まる想いでした。

新設講座ゆえ、引越しのダンボール箱に囲まれた狭い研究室からスタートし、学術振興会・未来開拓プロジェクト、JST・CREST プロジェクト、愛知万博のロボットプロジェクト、21世紀 COE、GCOE の研究担当リーダーなど、大型研

究を元氣溢れる学生たちと実施させていただきました。個人的な縁があった UCLA 工学部との研究協定締結のお世話や、10階からの「たまご落としコンテスト」も楽しい思い出です。

「優秀な学生らとの思い切り楽しい研究生活」が名古屋大学時代の総括です。その陰には、総長、学部長など執行部と、機械系専攻教員の皆様の暖かいご支援がありました。感謝に堪えません。現在は東京で奔走中ですが、心は東山に置いてあります。私でお役に立てることがあれば、いつでも馳せ参じます。名古屋大学をさらに世界的な大学に発展させましよう。



## 多くの人との出会い

中村 佳朗 大学院工学研究科教授

先ずは、名古屋大学で36年間教育研究させていただいたことを深く感謝しております。今振り返ると、その間にいろいろなことがありました。一番良かったことは、素晴らしい先生方に出会えたことです。航空学科は、昔は工学部3号館北館にあり、隣は土木工学教室で、多くの土木の先生とお知り合いになることができました。そのあと、工学部2号館に移り、そこでは、機械工学科の多くの先生と知り合うことができました。その他、学内の各種委員会に出席して、他学科、他学部の先生ともお知り合いになれました。自分一人では得ることができない、いろいろなことを教えてもらい、自分の幅が広がったのと同時に、レベルも高まったと喜んでおります。昨今メールが行き交う中、face to face が大事であることを痛感しています。もう一つ良かったのは、多くの学生

さんに出会えたことです。卒論、修論、博論の研究指導で、多くの学生と一緒に研究を行いました。学生さんから多くのことを学びました。自分より優れた学生がたくさんいるということに気づきました。若い人は捨てたものではありません。きっと将来の日本を背負ってくれると確信しています。その他、社会人博士の人達ともお付き合いさせていただき、実社会での諸々の事柄を多く学びました。以上述べた、人との出会いは、私にとって一番の財産で、これからも大事にしていきたいと思っています。人間万歳。



## ありがとう、名古屋大学

大森 博司 大学院環境学研究科教授

1983年に名古屋大学に着任して以来、本学には31年間お世話になりました。

1975年、大学院の学生だった私は、助手へのお誘いを受けて前任の大学の教員になりました。当時の国立大学教員の給与は景気の良い民間企業と比べて低めで、一流と言われていた民間企業に就職を果たした友人達からは何を好き好んで大学にと言われましたが、給料をいただいて勉強ができるという、他では得られない自由な時間を手に入れるための代償と真っ直ぐに考えての結論でした。爾来、39年の歳月が流れました。

私の専門は建築構造学です。講義が中心の教育については、原理的なことを大切にしつつ毎年、工夫を凝らしながら続けることができ、これは大変に楽しいものでした。研究に

関しては、人と違うことをおもしろくと心がけて進めてきました。その過程で若い共同研究者として私と一緒に仕事を進めた学生達は例外なく誰もが優秀で、名古屋大学の学生の質の高さに支えられて来た自分を幸せ者だったなと改めて振り返ります。

退職後、私はこれまでとは比べものにならないくらいに自由な時間を手にします。それが少し早めの退職の理由でもあります。これからは自分に求められるものをも一度見つけ直し、これに十分に応えられるような知力と体力をも一度取り戻したいと思っています。お世話になりました名古屋大学の今後の発展を祈念するとともに、これまで私を支えて下さったたくさんの皆さんに心より感謝します。



## 環境の良い医学研究所での30年間

村田 善晴 環境医学研究所教授

私は、1976年金沢大学医学部卒業後、しばらくは臨床に従事してきましたが、1981年シカゴ大学への留学を機に研究に携わることになりました。そして、留学中に名大環境医学研究所（環研）からお誘いがあり、1984年から約30年間環研で医学研究を続けてきました。1997年には教授に就任しましたが、翌年松尾総長により招集された「名大の将来を語る会」の第1期メンバーの一員として加わることができ、医学部のみならず、文系・理系を問わない様々な分野の方々と交流が始まりました。この交流は私にとっては今でも大きな財産となっています。

研究に関しては、私は一貫して甲状腺学に関わってきましたが、環研の「使命・目標」、すなわちミッションは大きく変わってきました。私が赴任した頃は「宇宙医学に代表され

る特殊な物理環境下の健康科学」を掲げていましたが、国立大学法人化に合わせて「近未来がもたらす健康障害のメカニズム解明と予防法開発」に変更し、先頃の「ミッションの再定義」の際は、「創薬」をキーワードにしたミッションを掲げています。しかし、変わらないのは環研が「環境の良い医学研究所」という事実です。この30年間、研究所の施設・機器の充実は目を見張るものがありますし、何より窓から見える四季折々の風景に随分と癒やされてきました。このような素晴らしい環境で医学研究に携わることができて本当に幸せでした。



## 名古屋大学に期待する

大日方 五郎 エコトピア科学研究所教授

13年間に及ぶ名古屋大での教員生活のうち、兼任をしておりました工学研究科機械理工学専攻の前身である機械工学専攻に1年間所属し、その後先端技術共同研究センターとエコトピア科学研究所に所属しましたので、通常の教員の方々が大学院研究科を本務とする時間が長いことに比べて少し変わった過ごし方をさせていただいたと思っています。この間総長補佐（産学官連携担当）や研究所副所長を務めさせていただき、大学の管理運営にもずいぶん関与させていただきました。幸せな教員生活であったと思っていますし、さまざまなチャンスを与えてくださった皆様、そして私の活動をサポートしてくださった皆様に感謝を申し上げます。

4月から中部大学工学部に設置された新学科「ロボット理工学」にお世話になっています。名大での経験を活かして

もう一仕事したいという新たな意欲がわいております。国立大学法人は、日本の転機に対応するための激動の時代が待っています。その中でも旧帝国大学や東工大など歴史のある主要大学は、新しい時代のための高等教育の在り方に照らして大きな成果が求められています。名古屋大学が、厳しい時代を乗り越え、世界をリードする大学として、社会の課題に対応していく力のある多くの優れたリーダーを社会に送り出していかれることを期待しております。

名大を表敬訪問された方々 [平成26年1月16日～4月15日]

| 日付        | 国/地域           | 訪問者   | 目的                                     |
|-----------|----------------|---|--|
| 1月16日     | サウジアラビア        | キングサウド大学からサウド・ダーウィッシュ産業工学科教授                              | 学生交流に関する打ち合わせ                          |
| 1月20日     | 英国             | エジンバラ大学学術能力開発研究所からジョン・ターナー所長                              | PhD プロフェッショナル登龍門によるワークショップ及び意見交換       |
| 1月21日     | 韓国             | 韓国海洋大学から朴漢一 学長他2名   | 表敬あいさつ及びグリーンモビリティ連携研究センターとの意見交換        |
| 1月22日     | 韓国             | 韓国航空大学表面応用技術センターからサン・イ・リョー センター長                          | 表敬あいさつ及びグリーンモビリティ連携研究センターとの部局間学術交流協定調印 |
| 1月23日     | タイ             | チュラロンコン大学石油・石油化学研究科からポントン・マラクル研究科長他1名                     | 表敬あいさつ及びグリーンモビリティ連携研究センターとの部局間学術交流協定調印 |
| 1月23日     | モンゴル           | モンゴル国立大学からバートルガ・スヘー理事                                     | 表敬あいさつ及び共同研究に係る打ち合わせ                   |
| 2月4日      | モンゴル           | モンゴル健康科学大学からバザー・アマルサイハン副学長                                | 表敬あいさつ                                 |
| 2月6日      | 韓国             | 韓国外国語大学からソンハ・リー副総長  | 表敬あいさつ                                 |
| 2月7日      | ミャンマー          | ミャンマー連邦憲法裁判所からミヤ・テイン長官他2名                                 | 表敬あいさつ                                 |
| 2月10日     | 国際機関           | アセアン本部からモクタン事務次長  | 表敬あいさつ及びセミナー                           |
| 2月12日、13日 | モンゴル           | 新モンゴル工業大学からチメド・ガンズリグ学長及びジャンチブ・ガルバドラッハ理事長                  | 表敬あいさつ及び関連研究室見学                        |
| 2月18日     | メキシコ           | 駐日メキシコ大使館よりクロド・ヘレル・ロサン大使他1名                               | 表敬あいさつ及び本学関係施設見学                       |
| 2月20日     | ラオス            | ラオス教育・スポーツ省よりセドゥン・ラチャンタブーン副大臣他1名                          | 表敬あいさつ及び国際シンポジウム                       |
| 2月21日     | タイ             | タイ王国教育省からスタッシー・オウンサマーン次官他1名                               | 表敬あいさつ及び国際シンポジウム                       |
| 2月22日     | ミャンマー          | ヤンゴン大学からキン・マー・イー法学部長他1名                                   | 表敬あいさつ及び国際シンポジウム                       |
| 2月22日     | 国際機関           | アセアンよりスリン・ピッスワン前事務総長                                      | 表敬あいさつ及び国際シンポジウム基調講演                   |
| 3月5日      | カンボジア          | 王立プノンベン大学からチェ・チャーリー学長他1名及びカンボジア教育・青年スポーツ省からニス・ブンレイ高等教育局次長 | 表敬あいさつ                                 |
| 3月5日      | 英国             | ブリティッシュ・カウンシルからテリー・トニー東アジアディレクター他1名                       | 表敬あいさつ、PhD 登龍門との意見交換及び特別講義             |
| 3月13日     | 米国             | ウエストバージニア大学からトーマス・スローン国際プログラム事務局長他1名                      | 経済学部・経済学研究科への表敬あいさつ                    |
| 3月18～20日  | ドイツ<br>オーストラリア | フライブルク大学からハンス・ヨハン・シーバー学長他4名及びアデレード大学よりケント・アンダーソン副学長補佐他5名  | 表敬あいさつ及び3大学医学部間合同学術協力学術会議              |



## 新たに締結した学術交流協定 [平成26年1月16日～4月15日]

### 部局間学術交流協定

| 締結日   | 地域/国名            | 大学/研究機関名                  | 部局名                       |
|-------|------------------|---------------------------|---------------------------|
| 1月22日 | 韓国               | 韓国航空大学校表面技術応用センター         | グリーンモビリティ連携研究センター         |
| 2月4日  | 韓国               | 釜山大学校法学専門大学院              | 法学研究科及び法学部                |
| 2月22日 | 台湾               | 国立台湾大学文学院日本研究センター         | 文学研究科附属「アジアの中の日本文化」研究センター |
| 3月12日 | ドイツ              | CFK バレー・スターデ研究機構          | ナショナルコンポジットセンター           |
| 3月17日 | ドイツ              | EBS 法経大学ロースクール            | 法学研究科                     |
| 3月18日 | オーストラリア<br>及びドイツ | アデレード大学健康科学部及びフライブルク大学医学部 | 医学系研究科及び医学部               |

## 構成員を対象とした研修 [平成26年1月16日～4月15日]

| 実施日                  | 研修名            | 目的  | 参加人数   |
|----------------------|----------------|---|--------|
| 1月20日(月)             | 第79回特許基礎セミナー   | 特許出願が未経験で今後出願したい等、特許出願に興味を持っている、あるいは出願経験はあるが再確認をしたい研究者を対象に、特許の基礎知識と特許出願に必須の先行技術調査の実習を行い、特許出願のできる研究者育成を図る。 | 3名     |
| 1月24日(金)             | 労務・福祉勉強会       | 本学の労務・福祉関係業務の担当者が、労働基準法等の関係法令や業務遂行上必要な知識等を身に付け、業務の的確な遂行に役立てるために実施する。                                      | 29名    |
| 3月6日(木)<br>～4月10日(木) | ハラスメント防止研修     | 構成員のハラスメント防止意識を高めるため  | 3,978名 |
| 4月2日(水)<br>～11日(金)   | 平成26年度新規採用職員研修 | 本学新規採用職員に対し、法人職員としての心構えを身につけると共に、社会人として必要な業務遂行上の基礎知識及び能力を養成する。  | 49名    |

## 新任部局長等の紹介

### ●大学院法学研究科・法学部長

神保 文夫  
(じんぼ ふみお)



専門分野：日本法制史  
(略歴)

昭和58年4月 名古屋大学法学部助手  
昭和60年4月 名古屋大学法学部助教授  
平成2年4月 名古屋大学法学部教授  
平成11年4月 名古屋大学大学院法学研究科教授  
平成11年4月 名古屋大学評議員  
平成26年4月 名古屋大学大学院法学研究科長

### ●大学院経済学研究科・経済学部長

根本 二郎  
(ねもと じろう)



専門分野：計量経済学  
(略歴)

昭和60年4月 名古屋大学経済学部助手  
昭和62年4月 名古屋大学経済学部講師  
平成4年10月 名古屋大学経済学部助教授  
平成8年4月 名古屋大学大学院国際開発研究科助教授  
平成8年7月 名古屋大学経済学部助教授  
平成12年4月 名古屋大学大学院経済学研究科助教授  
平成17年2月 名古屋大学大学院経済学研究科教授  
平成22年10月 名古屋大学総長補佐  
平成24年4月 名古屋大学教育研究評議会評議員  
平成24年4月 名古屋大学大学院経済学研究科副研究科長  
平成26年4月 名古屋大学大学院経済学研究科長

### ●大学院国際開発研究科長

伊東 早苗  
(いとう さなえ)



専門分野：開発社会学  
(略歴)

昭和63年4月 青年海外協力隊(社会学) バングラデシュ農村開発研究所  
平成3年1月 国際協力事業団ジュニア専門員  
平成11年1月 (財)国際開発高等教育機構  
国際開発研究センター嘱託研究員  
平成12年5月 バース大学開発研究センター客員研究員  
平成13年1月 名古屋大学大学院国際開発研究科助教授  
平成19年4月 名古屋大学大学院国際開発研究科准教授  
平成24年11月 名古屋大学大学院国際開発研究科教授  
平成26年4月 名古屋大学大学院国際開発研究科長

### ●高等教育研究センター長

水谷 法美  
(みずたに のりみ)



専門分野：海岸・海洋工学  
(略歴)

昭和63年4月 名古屋大学工学部助手  
平成3年4月 名古屋大学工学部助教授  
平成9年4月 名古屋大学大学院工学研究科助教授  
平成14年10月 名古屋大学大学院工学研究科教授  
平成23年4月 名古屋大学大学院工学研究科副研究科長  
平成24年4月 名古屋大学教育研究評議会評議員  
平成26年4月 名古屋大学高等教育研究センター長

### ●年代測定総合研究センター長

榎並 正樹  
(えなみ まさき)



専門分野：地球惑星科学  
(略歴)

昭和56年4月 日本学術振興会奨励研究員  
昭和57年4月 名古屋大学大学院理学研究科研究生  
昭和59年3月 名古屋大学理学部助手  
平成5年7月 名古屋大学理学部助教授  
平成8年4月 名古屋大学大学院理学研究科助教授  
平成12年10月 名古屋大学大学院理学研究科教授  
平成13年4月 名古屋大学大学院環境学研究科教授  
平成24年6月 名古屋大学年代測定総合研究センター教授  
平成26年4月 名古屋大学年代測定総合研究センター長

### ●博物館長

大路 樹生  
(おおじ たつお)



専門分野：海洋生物学、古生物学  
(略歴)

昭和58年4月 東京大学理学部助手  
平成4年12月 東京大学理学部講師  
平成6年12月 東京大学大学院理学系研究科助教授  
平成19年4月 東京大学大学院理学系研究科准教授  
平成22年6月 名古屋大学博物館教授  
平成26年4月 名古屋大学博物館長



## 新任部局長等の紹介

### ●法政国際教育協力研究センター長

小畑 郁  
(おばた かおる)



専門分野：国際法  
(略歴)

昭和62年4月 神戸商船大学商船学部講師  
平成2年4月 神戸商船大学商船学部助教授  
平成5年4月 金沢大学法学部助教授  
平成9年4月 名古屋大学法学部助教授  
平成11年4月 名古屋大学大学院法学研究科助教授  
平成14年12月 名古屋大学大学院法学研究科教授  
平成23年4月 名古屋大学教育研究評議会評議員  
平成23年4月 名古屋大学大学院法学研究科副研究科長  
平成26年4月 名古屋大学法政国際教育協力研究センター長

### ●脳とこころの研究センター長

祖父江 元  
(そぶえ げん)



専門分野：神経内科  
(略歴)

昭和50年4月 名古屋第一赤十字病院研修医  
昭和56年4月 名古屋大学医学部附属病院医員  
昭和56年10月 愛知医科大学内科学第四講座講師  
昭和57年7月 米国ペンシルバニア大学客員研究員  
平成2年2月 愛知医科大学内科学第四講座助教授  
平成7年4月 名古屋大学医学部教授  
平成12年4月 名古屋大学大学院医学研究科教授  
平成13年11月 名古屋大学総長補佐  
平成14年4月 名古屋大学大学院医学系研究科教授  
平成19年4月 名古屋大学大学院医学系研究科副研究科長  
平成24年4月 名古屋大学大学院医学系研究科長・医学部長  
平成25年12月 名古屋大学脳とこころの研究センター長

### ●ナショナルコンポジットセンター長

石川 隆司  
(いしかわ たかし)



専門分野：複合材料工学、構造力学  
(略歴)

昭和52年4月 東京大学宇宙航空研究所助手  
昭和53年4月 航空宇宙技術研究所研究員  
昭和58年4月 航空宇宙技術研究所主任研究官  
平成13年4月 独立行政法人航空宇宙技術研究所  
先端複合材評価技術開発センター長  
平成15年10月 独立行政法人宇宙航空研究開発機構  
総合技術研究本部先進複合材評価技術開発センター長  
平成17年10月 独立行政法人宇宙航空研究開発機構  
航空プログラムグループ航空プログラムディレクター  
平成20年4月 独立行政法人宇宙航空研究開発機構理事  
平成24年4月 名古屋大学大学院工学研究科教授  
平成24年4月 名古屋大学大学院工学研究科附属複合材工学研究センター長  
平成25年4月 名古屋大学大学院工学研究科航空宇宙工学専攻長  
平成26年1月 名古屋大学ナショナルコンポジットセンター長

### ●財務部長

坂口 広志  
(さかぐち ひろし)



(略歴)

昭和54年4月 富山高等専門学校学生課  
昭和54年9月 富山医科薬科大学総務部経理課  
昭和60年4月 文部省大臣官房会計課総務班  
平成4年1月 文部省大臣官房会計課国立学校第一係主任  
平成8年4月 文部省大臣官房会計課予算企画調整室第二係長  
平成9年4月 文部省大臣官房会計課第三予算班病院第二係長  
平成10年4月 文部省大臣官房会計課第三予算班病院第一係長  
平成11年4月 宇都宮大学経理部主計課長  
平成13年4月 初等中等教育局国際教育課海外子女教育専門官  
平成15年4月 文部科学省大臣官房文教施設部計画課補佐  
平成16年4月 文部科学省大臣官房文教施設部計画課補佐  
平成18年4月 文部科学省大臣官房会計課第三予算班主査  
平成19年4月 静岡大学財務施設部長  
平成21年4月 筑波大学病院総務部長  
平成24年4月 東京工業大学財務部長  
平成26年4月 名古屋大学財務部長

### ●研究協力部長

塩原 耕次  
(しおばら こうじ)



(略歴)

昭和51年8月 東京学芸大学教育学部  
昭和59年9月 文部省教育助成局教職員課現職教育係長  
平成2年4月 文部省教育助成局教職員課現職教育係長  
平成4年4月 文部省学術国際局研究機関課庶務係長  
平成6年4月 文部省学術国際局国際企画課庶務係長  
平成8年4月 滋賀医科大学総務部会計課長  
平成10年4月 福島大学会計課長  
平成12年4月 文化庁文化財保護部伝統文化課普及助成室室長補佐  
平成13年1月 文化庁文化財部美術学芸課美術館・歴史博物館室長補佐  
平成13年4月 文化庁文化財部美術学芸課美術館・歴史博物館室専門官  
(九州国立博物館(仮称)担当)  
平成16年4月 文部科学省科学技術・学術政策局計画官付計画官補佐  
平成17年4月 岩手大学研究交流部長  
平成19年4月 岩手大学財務部長  
平成20年4月 埼玉大学研究協力部長  
平成22年4月 九州大学学術研究推進部長  
平成24年4月 高エネルギー加速器研究機構総務部長  
平成26年4月 名古屋大学研究協力部長

### ●施設管理部長

小松 幸雄  
(こまつ ゆきお)



(略歴)

昭和50年11月 東北大学施設部建築課  
昭和59年10月 文部省大臣官房文教施設部広島工事事務所  
平成2年1月 文部省大臣官房文教施設部広島工事事務所工営掛主任  
平成3年4月 文部省大臣官房文教施設部名古屋工事事務所工営掛主任  
平成13年1月 文部科学省大臣官房文教施設部名古屋工事事務所専門職  
平成14年4月 東京工業大学施設部建築課長  
平成15年4月 東京工業大学施設部企画課長  
平成16年2月 筑波大学施設部企画課長  
平成18年10月 東京大学施設部整備課長  
平成20年4月 東京大学本部施設企画グループ長  
平成21年7月 東京大学本部統括長(施設・資産系)事務代理  
平成22年4月 東京大学本部施設企画課長  
平成23年4月 富山大学施設企画課長  
平成26年4月 名古屋大学施設管理部長

## 役員等

|                                  |           |
|----------------------------------|-----------|
| 総長                               | 濱口 道成     |
| 理事（教育・情報関係担当）・副総長                | 山本 一良     |
| 理事（財務・男女共同参画関係担当）・副総長            | 藤井 良一     |
| 理事（総務関係担当）・副総長                   | 鮎京 正訓     |
| 理事（研究・学生支援・入試関係担当）・副総長           | 國枝 秀世     |
| 理事（国際・広報・社会連携関係担当）・副総長           | 渡辺 芳人     |
| 理事（人事労務・施設設備・環境安全・事務総括関係担当）・事務局長 | 竹下 典行     |
| 理事（産学連携関係担当（関東地区担当））             | 横田 昭（学外）† |
| 副総長（評価・総合企画関係担当）                 | 鈴置 保雄     |
| 副総長（産学官・病院経営関係担当）                | 松尾 清一     |
| 副総長（法務・リスク管理・人権関係担当）             | 市橋 克哉     |

|    |            |
|----|------------|
| 監事 | 熊田 一充（学外）  |
| 監事 | 浅野 良裕（学外）† |
| 参与 | 山田 直（学外）†  |
| 参与 | 伊藤 勝基（学外）† |
| 参与 | 小川 宏嗣（学外）† |
| 参与 | 房村 精一（学外）† |
| 参与 | 徳永 保（学外）†  |
| 参与 | 徳川 義崇（学外）† |

†印は非常勤

## 経営協議会委員

|                          |       |
|--------------------------|-------|
| 学外委員                     |       |
| トヨタ自動車株式会社代表取締役会長        | 内山田竹志 |
| 学習院大学名誉教授                | 奥村 洋彦 |
| 中部電力株式会社相談役              | 川口 文夫 |
| 大学共同利用機関法人情報・システム研究機構理事  | 郷 通子  |
| 株式会社中日新聞社相談役             | 坂井 克彦 |
| 名古屋経済大学長                 | 佐々木雄太 |
| 日本ガイシ株式会社相談役             | 柴田 昌治 |
| 愛知県病院事業庁長（愛知県がんセンター名誉総長） | 二村 雄次 |
| 丹羽連絡事務所代表                | 丹羽宇一郎 |
| 日本アイ・ビー・エム株式会社取締役会長      | 橋本 孝之 |

（五十音順）

## 学内委員

|          |       |
|----------|-------|
| 総長       | 濱口 道成 |
| 理事       | 山本 一良 |
| 理事       | 藤井 良一 |
| 理事       | 鮎京 正訓 |
| 理事       | 國枝 秀世 |
| 理事       | 渡辺 芳人 |
| 理事       | 竹下 典行 |
| 副総長      | 鈴置 保雄 |
| 副総長      | 松尾 清一 |
| 医学部附属病院長 | 石黒 直樹 |

## 教育研究評議会評議員

|             |       |
|-------------|-------|
| 総長          | 濱口 道成 |
| 理事          | 山本 一良 |
| 理事          | 藤井 良一 |
| 理事          | 鮎京 正訓 |
| 文学研究科長      | 木俣 元一 |
| 教育発達科学研究科長  | 松田 武雄 |
| 法学研究科長      | 神保 文夫 |
| 経済学研究科長     | 根本 二郎 |
| 情報文化学部長     | 神保 雅一 |
| 理学研究科長      | 篠原 久典 |
| 医学系研究科長     | 高橋 雅英 |
| 工学研究科長      | 松下 裕秀 |
| 生命農学研究科長    | 前島 正義 |
| 国際開発研究科長    | 伊東 早苗 |
| 多元数理科学研究科長  | 菅野 浩明 |
| 国際言語文化研究科長  | 福田 真人 |
| 環境学研究科長     | 久野 覚  |
| 情報科学研究科長    | 坂部 俊樹 |
| 創薬科学研究科長    | 人見 清隆 |
| 環境医学研究所長    | 澤田 誠  |
| 太陽地球環境研究所長  | 松見 豊  |
| エコトピア科学研究科長 | 田中 信夫 |
| 附属図書館長      | 佐野 充  |

|               |       |
|---------------|-------|
| 医学部附属病院長      | 石黒 直樹 |
| 総合保健体育科学センター長 | 押田 芳治 |
| 文学研究科         | 周藤 芳幸 |
| 教育発達科学研究科     | 森田美弥子 |
| 法学研究科         | 中東 正文 |
| 経済学研究科        | 野口 晃弘 |
| 理学研究科         | 杉山 直  |
| 医学系研究科        | 榑原 久孝 |
| 工学研究科         | 長谷川 正 |
| 生命農学研究科       | 川北 一人 |
| 国際開発研究科       | 梅村 哲夫 |
| 多元数理科学研究科     | 納谷 信  |
| 国際言語文化研究科     | 長畑 明利 |
| 環境学研究科        | 田中 重好 |
| 情報科学研究科       | 安田 孝美 |
| 創薬科学研究科       | 北村 雅人 |
| 教育研究共同施設連合選出  | 町田 健  |
| 教育研究共同施設連合選出  | 伊藤 義人 |



総長補佐

|                             |       |
|-----------------------------|-------|
| 教育担当、評価担当                   | 戸田山和久 |
| 教育組織担当                      | 新美 智秀 |
| 教育組織担当                      | 上原 早苗 |
| 研究・教育支援担当                   | 松村 年郎 |
| 男女共同参画担当                    | 東村 博子 |
| 研究費不正使用防止担当、研究推進担当、総合企画調査担当 | 藤巻 朗  |
| 文書資料担当                      | 池内 敏  |
| 研究推進担当                      | 門松 健治 |
| 研究推進担当                      | 原 克彦  |
| 研究推進担当                      | 阿波賀邦夫 |
| 入試担当                        | 佐久間淳一 |
| 国際関係及び広報担当                  | 岩城 奈巳 |
| 社会連携・社会貢献担当                 | 宇澤 達  |
| 国際関係担当                      | 土井 康裕 |

|            |       |
|------------|-------|
| 施設整備担当     | 谷口 元  |
| 労働安全担当     | 村田 静昭 |
| 防災担当       | 鈴木 康弘 |
| 評価担当       | 植村 和正 |
| 総合企画調査担当   | 大屋 雄裕 |
| 総合企画調査担当   | 長谷川好規 |
| 総合企画調査担当   | 岡田 重弥 |
| 産学官連携担当    | 財満 鎮明 |
| 産学官連携担当    | 齋藤 永宏 |
| 産学官連携担当    | 水野 正明 |
| 法務担当       | 酒井 一  |
| 人権担当       | 福澤 直樹 |
| 人権（苦情処理）担当 | 渡部美由紀 |

部局長等

|           |                   |       |
|-----------|-------------------|-------|
| 本部        |                   |       |
| 事務局       | 事務局長              | 竹下 典行 |
| 総務部       | 総務部長              | 堀内 敦  |
|           | 総務課長              | 大矢 淳一 |
|           | 広報渉外課長            | 福地 克美 |
|           | 渉外主幹              | 廣川 光之 |
|           | 人事課長              | 長谷川靖彦 |
|           | 人事主幹              | 上野 哲也 |
|           | 職員課長              | 伊藤 秀樹 |
|           | 財務部               | 財務部長  |
| 財務課長      |                   | 服部 樹理 |
| 財務調整主幹    |                   | 村手 隆司 |
| 経理・資産管理課長 |                   | 市川 真康 |
| 契約課長      |                   | 齋藤 勝行 |
| 研究協力部     | 研究協力部長            | 塩原 耕次 |
|           | 研究支援課長            | 新地 博  |
|           | 社会連携課長（研究協力部次長心得） | 加藤 滋  |
| 国際部       | 国際部長              | 三枝 広人 |
|           | 国際企画課長            | 野田 昭彦 |
|           | 国際主幹              | 篠原 量紗 |
|           | 国際企画主幹            | 鎌澤かおり |
|           | 国際入試主幹            | 小崎 光芳 |
|           | 国際学生交流課長          | 浅野 国裕 |
| 施設管理部     | 施設管理部長            | 小松 幸雄 |
|           | 施設企画課長            | 松田 賢  |
|           | 施設整備課長            | 青木 浩史 |
|           | 施設管理課長            | 袴田 満明 |
|           | 環境安全支援課長          | 岩佐 智  |
| 企画・学務部    | 企画・学務部長           | 一居 利博 |
|           | 学務課長              | 室屋 守男 |
|           | 教養教育院事務主幹         | 中瀆 定美 |
|           | 企画課長              | 渡邊 千夏 |
|           | 企画主幹              | 河合 泰和 |
|           | 学生支援課長            | 松岡真一郎 |
|           | 入試課長              | 橘 幹宏  |

|                    |                       |       |
|--------------------|-----------------------|-------|
| 運営支援組織             | 学術研究・産学官連携推進本部長       | 松尾 清一 |
|                    | 国際教育交流本部長             | 渡辺 芳人 |
|                    | 情報連携統括本部長             | 山本 一良 |
|                    | 情報推進部長                | 櫻井 清隆 |
|                    | 情報推進課長                | 服部 昌祐 |
|                    | 情報基盤課長                | 瀬川 午直 |
|                    | 環境安全衛生推進本部長           | 竹下 典行 |
|                    | 防災推進本部長               | 竹下 典行 |
|                    | 施設・環境計画推進室長           | 谷口 元  |
|                    | 核燃料管理施設長              | 井口 哲夫 |
|                    | 評価企画室長                | 鈴置 保雄 |
|                    | ハラスメント相談センター長         | 石黒 洋  |
|                    | 社会連携推進室長              | 宇澤 達  |
|                    | 災害対策室長                | 飛田 潤  |
|                    | 男女共同参画室長              | 東村 博子 |
|                    | 法務室長                  | 酒井 一  |
|                    | リスク管理室長               | 市橋 克哉 |
|                    | 総合企画室長                | 鈴置 保雄 |
|                    | PhD 登龍門推進室長           | 山本 一良 |
|                    | 動物実験支援センター長           | 國枝 秀世 |
| 大学文書資料室長           | 鮎京 正訓                 |       |
| 監査室                | 監査室長                  | 市橋 克哉 |
|                    | 監査室主幹                 | 市岡 浩之 |
| 教養教育院              | 教養教育院長                | 小野木克明 |
| 高等研究院              | 高等研究院長                | 安藤 隆穂 |
| トランスフォーメティブ生命分子研究所 | トランスフォーメティブ生命分子研究所長   | 伊丹健一郎 |
| 文学研究科・文学部          | 文学研究科長・文学部長           | 木俣 元一 |
|                    | 附属「アジアの中の日本文化」研究センター長 | 池内 敏  |
|                    | 附属人類文化遺産テキスト学研究センター長  | 阿部 泰郎 |
| 教育発達科学<br>研究科・教育学部 | 教育発達科学研究科長・教育学部長      | 松田 武雄 |
|                    | 附属中学校長                | 植田 健男 |
|                    | 附属高等学校長               | 植田 健男 |
| 法学研究科・法学部          | 法学研究科長・法学部長           | 神保 文夫 |
|                    | 附属法情報研究センター長          | 増田 知子 |

|                          |                        |                   |       |
|--------------------------|------------------------|-------------------|-------|
| 経済学研究科・<br>経済学部          | 経済学研究科長・経済学部長          | 根本 二郎             |       |
|                          | 附属国際経済政策研究センター長        | 木村 彰吾             |       |
| 文系事務部                    | 事務部長                   | 河本 達吾             |       |
|                          | 総務課長                   | 社本 庄司             |       |
|                          | 経理課長                   | 佐田 隆昭             |       |
|                          | 教務課長                   | 内出 裕之             |       |
| 情報文化学部                   | 情報文化学部長                | 神保 雅一             |       |
|                          | 情報文化学部・情報科学研究科事務長      | 合田由美子             |       |
| 理学研究科・<br>理学部            | 理学研究科長・理学部長            | 篠原 久典             |       |
|                          | 附属臨海実験所長               | 澤田 均              |       |
|                          | 附属南半球宇宙観測研究センター長       | 福井 康雄             |       |
|                          | 附属構造生物学研究センター長         | 本間 道夫             |       |
|                          | 附属タウ・レプトン物理研究センター長     | 久野 純治             |       |
|                          | 理学部・理学研究科・多元数理科学研究科事務長 | 斉藤 肇              |       |
| 医学系研究科・<br>医学部           | 医学系研究科長・医学部長           | 高橋 雅英             |       |
|                          | 附属医学教育研究支援センター長        | 門松 健治             |       |
|                          | 附属神経疾患・腫瘍分子医学研究センター長   | 高橋 隆              |       |
|                          | 医学部附属病院長               | 石黒 直樹             |       |
|                          | 医学部・医学系研究科事務部長         | 塩崎 英司             |       |
|                          | 事務部次長                  | 高下 一磨             |       |
|                          | 総務課長                   | 曾谷 祐一             |       |
|                          | 人事労務主幹                 | 鎌澤 幸彦             |       |
|                          | 学務課長                   | 大脇 申子男            |       |
|                          | 経営企画課長                 | 安田 浩明             |       |
|                          | 経理課長                   | 堂前 弘樹             |       |
|                          | 施設管理主幹                 | 佐野 立明             |       |
|                          | 医事課長                   | 仲井 精一             |       |
|                          | 医療業務支援課長               | 武内 松二             |       |
|                          | 大幸地区事務統括課長             | 棚瀬 隆夫             |       |
|                          | 工学研究科・<br>工学部          | 工学研究科長・工学部長       | 松下 裕秀 |
|                          |                        | 附属プラズマナノ工学研究センター長 | 豊田 浩孝 |
| 附属材料バックキャストテクノロジー研究センター長 |                        | 金武 直幸             |       |
| 附属計算科学連携教育研究センター長        |                        | 白石 賢二             |       |
| 附属マイクロ・ナノメカトロニクス研究センター長  |                        | 新井 史人             |       |
| 工学部・工学研究科事務部長            |                        | 小林 照夫             |       |
| 総務課長                     |                        | 塚崎 一彦             |       |
| 社会連携主幹                   |                        | 高田 義雅             |       |
| 経理課長                     |                        | 澤村 明都             |       |
| 教務課長                     |                        | 宮崎 洋介             |       |
| 生命農学研究科・<br>農学部          | 生命農学研究科長・農学部長          | 前島 正義             |       |
|                          | 附属フィールド科学教育研究センター長     | 戸丸 信弘             |       |
|                          | 附属鳥類バイオサイエンス研究センター長    | 松田 洋一             |       |
|                          | 農学部・生命農学研究科事務長         | 杉浦 良幸             |       |
| 国際開発研究科                  | 国際開発研究科長               | 伊藤 早苗             |       |
| 多元数理科学研究科                | 多元数理科学研究科長             | 菅野 浩明             |       |
| 国際言語文化研究科                | 国際言語文化研究科長             | 福田 真人             |       |
| 環境学研究科                   | 環境学研究科長                | 久野 覚              |       |
|                          | 附属地震火山研究センター長          | 吉本 宗充             |       |
|                          | 附属持続的共発展教育研究センター長      | 林 良嗣              |       |
|                          | 環境学研究科事務長              | 引字 勝美             |       |

|                      |                          |               |       |
|----------------------|--------------------------|---------------|-------|
| 情報科学研究科              | 情報科学研究科長                 | 坂部 俊樹         |       |
|                      | 附属組込みシステム研究センター長         | 高田 広章         |       |
| 創薬科学研究科              | 創薬科学研究科長                 | 人見 清隆         |       |
|                      | 創薬科学研究科・細胞生理学研究センター事務部主幹 | 近藤 正仁         |       |
| 環境医学研究所              | 環境医学研究所長                 | 澤田 誠          |       |
|                      | 附属近未来環境シミュレーションセンター長     | 澤田 誠          |       |
| 太陽地球環境<br>研究所        | 太陽地球環境研究所長               | 松見 豊          |       |
|                      | 附属ジオスペース研究センター長          | 平原 聖文         |       |
| エコトピア科学研究所<br>研究所事務部 | エコトピア科学研究所長              | 田中 信夫         |       |
|                      | 事務部長                     | 長尾 義則         |       |
|                      | 総務課長                     | 坪井 直志         |       |
| 経理課長                 | 経理課長                     | 鈴木 均          |       |
|                      | 附属図書館                    | 附属図書館長        | 佐野 充  |
|                      |                          | 医学部分館長        | 濱嶋 信之 |
| 研究開発室長               |                          | 佐野 充          |       |
| 附属図書館事務部長            |                          | 酒井 清彦         |       |
| 情報管理課長               |                          | 竹谷喜美江         |       |
| 情報サービス課長             |                          | 次良丸 章         |       |
| 情報システム課長(事務取扱)       |                          | 酒井 清彦         |       |
| 共同利用・<br>共同研究拠点      |                          | 地球水循環研究センター長  | 石坂 丞二 |
|                      |                          | 情報基盤センター長     | 伊藤 義人 |
| 学内共同教育<br>研究施設等      |                          | アイソトープ総合センター長 | 本間 道夫 |
|                      | 遺伝子実験施設長                 | 木下 俊則         |       |
|                      | 物質科学国際研究センター長            | 阿波賀邦夫         |       |
|                      | 高等教育研究センター長              | 水谷 法美         |       |
|                      | 農学国際教育協力研究センター長          | 山内 章          |       |
|                      | 年代測定総合研究センター長            | 榎並 正樹         |       |
|                      | 博物館長                     | 大路 樹生         |       |
|                      | 発達心理精神科学教育研究センター長        | 松本真理子         |       |
|                      | 法政国際教育協力研究センター長          | 小畑 郁          |       |
|                      | 生物機能開発利用研究センター長          | 川北 一人         |       |
|                      | シンクロトロン光研究センター長          | 馬場 嘉信         |       |
|                      | 基礎理論研究センター長              | 野尻 伸一         |       |
|                      | 現象解析研究センター長              | 飯嶋 徹          |       |
|                      | グリーンモビリティ連携研究センター長(事務取扱) | 小野木克明         |       |
|                      | 減災連携研究センター長              | 福和 伸夫         |       |
| 細胞生理学研究センター長         | 廣明 秀一                    |               |       |
| 脳とこころの研究センター長        | 祖父江 元                    |               |       |
| ナショナルコンポジットセンター長     | 石川 隆司                    |               |       |
| 学生相談総合センター長          | 植田 健男                    |               |       |
| 総合保健体育科学センター         | 総合保健体育科学センター長            | 押田 芳治         |       |
| 未来社会創造機構             | 未来社会創造機構長                | 松尾 清一         |       |
|                      | 人とモビリティ社会の研究開発センター長      | 小野木克明         |       |
|                      | 社会イノベーションデザイン学センター長      | 齋藤 永宏         |       |
| 素粒子宇宙起源研究機構          | 素粒子宇宙起源研究機構長             | 益川 敏英         |       |
| 全学技術センター             | 全学技術センター長                | 藤井 良一         |       |

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成26年3月16日～4月15日]

| 記事   | 月日   | 新聞等名                           |
|--|--|--------------------------------|
| 1 「腎臓から考える健康ライフセミナー」開催：16日 松尾清一医学系研究科教授が講演   | 3.17 (月)                                     | 朝日 (朝刊)                        |
| 2 現代日本誤百科 (954)：「耳を疑う衝撃の事実だった」町田 健文学研究科教授  | 3.18 (火)                                     | 中日 (朝刊)                        |
| 3 読売テクノ・フォーラム第20回ゴールド・メダル賞：東山哲也トランスフォーマティブ生命分子研究所教授  | 3.18 (火)<br>4. 7 (月)                         | 読売<br>読売                       |
| 4 紙つづて：運び屋 杉山 直理学研究科教授   | 3.18 (火)                                     | 中日 (夕刊)                        |
| 5 現代日本誤百科 (955)：「生命の危険」がある 町田 健文学研究科教授   | 3.19 (水)                                     | 中日 (朝刊)                        |
| 6 家森信善経済学研究科教授は名古屋圏の地価上昇の理由について「円高是正によるトヨタ自動車など輸出産業の業績が回復したことだ」と語る   | 3.19 (水)                                     | 読売                             |
| 7 第18回博物館特別展人類史上画期的な石器 - 名大のアフリカ考古学と南山大の旧石器コレクション - 開催：4日～7月12日  | 3.19 (水)                                     | 朝日 (夕刊)                        |
| 8 本学とアデレード大学、フライブルク大学は互いに留学した大学院生の論文を合同審査し医学博士号に相当する学位を授与する覚書を締結   | 3.20 (木)                                     | 日経 (朝刊)<br>他3社                 |
| 9 本学の防災・減災研究拠点「減災館」が完成   | 3.20 (木)                                     | 日経 (朝刊)                        |
| 10 現代日本誤百科 (956)：「自然を色濃く残している」町田 健文学研究科教授  | 3.20 (木)                                     | 中日 (朝刊)                        |
| 11 中日新聞を読んで：STAP 論文騒動と報道 愛敬浩二法学研究科教授   | 3.20 (木)                                     | 中日 (夕刊)                        |
| 12 らいふプラス：急性白血病治療の実力病院として医学部附属病院が取り上げられる   | 3.20 (木)                                     | 日経 (夕刊)                        |
| 13 「ESD YOUTH INITIATIVE ～将来×世界～」開催：23日 東山キャンパスで開催   | 3.20 (木)<br>3.22 (土)<br>3.24 (月)<br>4. 4 (木) | 読売<br>中日 (朝刊)<br>読売<br>中日 (朝刊) |
| 14 数理ウェーブ開催：22日 大沢健夫多元数理科学研究科教授が「逆問題と数学」と題して講演   | 3.21 (金)                                     | 中日 (夕刊)                        |
| 15 レーザー：渡辺理事が日本化学会年会について「今春の年会では、研究成果をまとめて紹介する講演のうち、4分の1が英語による発表だ」と語る  | 3.24 (月)                                     | 日刊工業                           |
| 16 現代日本誤百科 (957)：「最愛なる愛犬」町田 健文学研究科教授   | 3.24 (月)                                     | 中日 (朝刊)                        |
| 17 時代が求める企業の社会貢献とは？ ESD の視点から 福和伸夫減災連携研究センター教授   | 3.24 (月)                                     | 日刊工業                           |
| 18 グリーンモビリティ連携研究センター長に小野木克明工学研究科教授が再任  | 3.24 (月)                                     | 中日 (朝刊)                        |
| 19 高校野球春季愛知県大会 一次予選：23日 教育学部附属高等学校が旭丘高等学校に1-8、名古屋南高等学校に3-9で敗れる   | 3.24 (月)                                     | 読売                             |
| 20 インタビュールーム：今月末で愛知教育大学長を退任 松田正久氏本学卒業生   | 3.24 (月)                                     | 毎日 (朝刊)                        |
| 21 知の革新 濱口総長×次期経済団体連合会会長榊原定征氏本学卒業生   | 3.24 (月)                                     | 日経 (朝刊)                        |
| 22 藤吉好則創薬科学研究科特任教授などのグループが難病「モヤモヤ病」の原因タンパク質が、細胞内でドーナツ状の構造をつくっては分離する運動を繰り返していることを突き止めた                        | 3.25 (火)                                     | 中日 (朝刊)                        |
| 23 平成25年度名古屋大学卒業式が行われ濱口総長は「勇気ある知識人として人生を切り開いてほしい」と祝辞を述べた   | 3.25 (火)                                     | 中日 (夕刊)                        |
| 24 紙つづて：インフレーション？ 杉山 直理学研究科教授  | 3.25 (火)                                     | 中日 (夕刊)                        |
| 25 永野修作工学研究科准教授と北陸先端科学技術大学院大学などは燃料電池材料の水素イオン透過膜の高性能化技術を開発  | 3.26 (水)                                     | 日刊工業                           |
| 26 現代日本誤百科 (958)：「経験を周知する」町田 健文学研究科教授  | 3.26 (水)                                     | 中日 (朝刊)                        |
| 27 本学で29日に開かれる日本化学会春季年会で京都大学が太陽電池向け機能性有機材料を構成するための溶解性が高い平面型骨格の開発を発表  | 3.26 (水)                                     | 日刊工業                           |
| 28 第1回名古屋大学神経回路国際シンポジウム開催：24日 森 郁恵理学研究科教授と上川内あづさ同教授が講演   | 3.26 (水)                                     | 中日 (朝刊)                        |
| 29 現代日本誤百科 (959)：「風圧が起こる」町田 健文学研究科教授   | 3.27 (木)                                     | 中日 (朝刊)                        |
| 30 五輪成功 トヨタGで協力 豊田章一郎全学同窓会会長が愛知万博で博覧会協会会長として活躍したことが取り上げられる   | 3.27 (木)                                     | 中日 (朝刊)                        |
| 31 超える力 名古屋大学総長×女性研究者  | 3.27 (木)                                     | 日経 (朝刊)                        |
| 32 らいふプラス：閉塞性動脈疾患治療の実力病院として医学部附属病院が取り上げられる   | 3.27 (木)                                     | 日経 (夕刊)                        |
| 33 日経ビジネスイノベーションフォーラム「日本経済を活性化させる M&A」開催：2月20日 丹羽宇一郎本学名誉博士が講演  | 3.28 (金)                                     | 日経 (朝刊)                        |
| 34 100年前の名大医学部 ルポライター荒川 晃氏   | 3.28 (金)                                     | 中日 (夕刊)                        |
| 35 福和伸夫減災連携研究センター教授は南海トラフ地震と首都直下地震の減災について「すぐできる対策ばかりで、土地の利用制限や耐震基準の強化など痛みを伴う対策や首都機能移転のような本格的な課題に踏み込めていない」と語る | 3.29 (土)                                     | 朝日 (朝刊)                        |



本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成26年3月16日～4月15日]

| 記事  | 月日                   | 新聞等名               |
|---|----------------------|--------------------|
| 36 第18回博物館特別展公開シンポジウム「名古屋大学のアフリカ考古学調査」：4日5日   | 3.29 (土)<br>4. 3 (水) | 中日 (朝刊)<br>読売      |
| 37 病院の実力：足の救急治療実績で医学部附属病院の実績が取り上げられる  | 3.30 (日)             | 読売                 |
| 38 現代日本誤百科 (960)：ジェラートは「スタッフのおまかせ」町田 健文学研究科教授   | 3.31 (月)             | 中日 (朝刊)            |
| 39 市民向け公開講座「科学で未来をきり拓く」：30日 篠原久典理学研究科教授が講演  | 3.31 (月)             | 中日 (朝刊)            |
| 40 本学と名古屋観光コンベンションビューローが連携協定を締結   | 3.31 (月)             | 中日 (朝刊)            |
| 41 現代日本誤百科 (961)：「無茶で破天荒な行動」町田 健文学研究科教授   | 4. 1 (火)             | 中日 (朝刊)            |
| 42 私の履歴書①：創業の精神 豊田章一郎全学同窓会会長  | 4. 1 (火)             | 日経 (朝刊)            |
| 43 紙つぶて：名古屋大学アジア展開 杉山 直理学研究科教授  | 4. 1 (火)             | 中日 (夕刊)            |
| 44 濱口総長は研究論文の不正に対して「論文の不正を防ぐのは指導者の責任」と語り、松本邦弘理学研究科教授は「後に不正が疑われた場合を想像させることで、不正の芽を摘むことにつながる」と語る | 4. 2 (水)             | 中日 (朝刊)            |
| 45 内堀外堀：祝辞 濱口総長は平成25年度大学院修了式で「科学者にとって、論文は人生の象徴」と祝辞を述べた  | 4. 2 (水)             | 中日 (朝刊)            |
| 46 時のおもりの STAP 細胞をめぐるドタバタ劇 池内 了本学名誉教授   | 4. 2 (水)             | 中日 (朝刊)            |
| 47 私の履歴書②：幼少の頃 豊田章一郎全学同窓会会長   | 4. 2 (水)             | 日経 (朝刊)            |
| 48 調達 NOW：購買担当役員に聞く 株式会社ジェイテクト常務調達本部長久米 敦氏本学卒業生   | 4. 2 (水)             | 日刊工業               |
| 49 本学研究支援課担当者は盗用の有無を調べる検知システム「アイセンティケイト」を導入したことについて「論文をチェックする外部の目は厳しさを増している」と語る               | 4. 2 (水)             | 日経 (夕刊)            |
| 50 学ぶ育む：スクールデイズ 才能「錯覚」理数楽しく 益川敏英本学特別教授  | 4. 3 (木)             | 読売                 |
| 51 私の履歴書③：父・喜一郎 豊田章一郎全学同窓会会長  | 4. 3 (木)             | 日経 (朝刊)            |
| 52 本学留学生会が日本に来たばかりの留学生のためのバザーに出品する生活用品を募集   | 4. 4 (金)             | 中日 (朝刊)            |
| 53 朝日カルチャーセンター講座「チベット仏教における悟り」：谷口富士夫本学非常勤講師   | 4. 4 (金)             | 朝日 (朝刊)            |
| 54 私の履歴書④：ドライブ 豊田章一郎全学同窓会会長   | 4. 4 (金)             | 日経 (朝刊)            |
| 55 平成26年度入学式：5日 濱口総長は「自分の力で世界を探検し、自分の可能性を見つけてほしい」と語る  | 4. 5 (土)<br>4. 6 (日) | 中日 (夕刊)<br>朝日 (朝刊) |
| 56 医学部附属病院小児科が取り組む、子どもの難治性がんの告知について   | 4. 5 (土)             | 朝日 (朝刊)            |
| 57 土曜訪問：書籍「哲学入門」戸田山和久情報科学研究科教授著   | 4. 5 (土)             | 中日 (夕刊)            |
| 58 中嶋哲彦教育発達科学研究科教授は「領土問題の政府見解は時の政権によって変わる可能性があり、教科書に『正しいこと』として載せるのにふさわしくない」と語る                | 4. 5 (土)             | 中日 (朝刊)            |
| 59 附属図書館医学部分館第6回ミニ展示会「戦争と大学－1931～1945官立名古屋医科大学・名古屋帝国大学－」開催：2月12日～5月30日                        | 4. 5 (土)             | 朝日 (朝刊)            |
| 60 私の履歴書⑤：戦争 豊田章一郎全学同窓会会長   | 4. 5 (土)             | 日経 (朝刊)            |
| 61 病院の実力：心臓病手術 経験が目安 医学部附属病院の実績が取り上げられる   | 4. 6 (日)             | 読売                 |
| 62 病院の実力：心臓と血管の病気 医学部附属病院の実績が取り上げられる  | 4. 6 (日)             | 読売                 |
| 63 中日新聞防災プロジェクト「楽しく学ぶ！防災フォーラム」開催：27日 福和伸夫減災連携研究センター教授が講演                                      | 4. 6 (日)             | 中日 (朝刊)            |
| 64 私の履歴書⑥：敗戦 豊田章一郎全学同窓会会長   | 4. 6 (日)             | 日経 (朝刊)            |
| 65 くらしナビ学ぶ：国立大が海外進出加速 本学のアジア各国での展開が取り上げられる  | 4. 7 (月)             | 毎日 (朝刊)            |
| 66 ラボ通信：次世代エンジン 宇宙に 笠原次郎工学研究科教授のグループ  | 4. 7 (月)             | 読売                 |
| 67 備える3.11から第90回「揺れる」減災館：防災研究 多角的に 福和伸夫減災連携研究センター教授   | 4. 7 (月)             | 中日 (朝刊)            |
| 68 私の履歴書⑦：入社以前 豊田章一郎全学同窓会会長   | 4. 7 (月)             | 日経 (朝刊)            |
| 69 ノーベル賞受賞者を囲むフォーラム「次世代へのメッセージ」開催：2月22日 野依良治本学特別教授が講演   | 4. 8 (火)             | 読売                 |
| 70 第100回防災アカデミー『『国難』災害を迎え撃て！』開催：11日 減災館で行われる  | 4. 8 (火)             | 中日 (朝刊)            |
| 71 講演会「パーキンソン病薬剤治療の変遷」開催：27日 平山正昭医学系研究科准教授が講演   | 4. 8 (火)             | 中日 (朝刊)            |
| 72 私の履歴書⑧：父の死 豊田章一郎全学同窓会会長  | 4. 8 (火)             | 日経 (朝刊)            |
| 73 中部企業これで克つ 山田製菓：かりんとうドーナツ 山田製菓株式会社社長山田哲郎氏本学大学院修了生   | 4. 8 (火)             | 日経 (朝刊)            |
| 74 紙つぶて：天文学者 杉山 直理学研究科教授  | 4. 8 (火)             | 中日 (夕刊)            |
| 75 研究現場発：空気界面から液晶材料を配向させる 関 隆広工学研究科教授   | 4. 8 (火)             | 中部経済新聞             |
| 76 現代日本誤百科 (966)：価格が「引き上がった」町田 健文学研究科教授   | 4. 9 (水)             | 中日 (朝刊)            |
| 77 内堀外堀：防災意識 減災連携研究センターで行われている「げんさいカフェ」での会話について   | 4. 9 (水)             | 中日 (朝刊)            |

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成26年3月16日～4月15日]

| 記事  | 月日       | 新聞等名               |
|---|----------|--------------------|
| 78 私の履歴書⑨：結婚・入社 豊田章一郎全学同窓会会長  | 4. 9 (水) | 日経 (朝刊)            |
| 79 森 郁恵理学研究科教授は理化学研究所ユニットリーダー小保方晴子氏の会見について「科学者として私たちが抱いていた疑問は何も明らかにされなかった」と語る                           | 4.10 (木) | 朝日 (朝刊)<br>中日 (朝刊) |
| 80 池内 了本学名誉教授は理化学研究所ユニットリーダー小保方晴子氏の会見について「小保方氏がミスを非常に反省しながら、『不正という理研の一方的な決めつけは受け入れられない』という気持ちは理解できる」と語る | 4.10 (木) | 朝日 (朝刊)            |
| 81 内山 剛工学研究科准教授と名古屋産業科学研究所は生体内を流れる磁気の測定によって心疾患の有無を検知できる新型の磁気センサーを開発                                     | 4.10 (木) | 日刊工業               |
| 82 坂井亜規子環境学研究科研究員が作製したアジア氷河分布図を米国の学会で発表すると各国の研究者に公開を求められ「評価された」と語る                                      | 4.10 (木) | 毎日 (朝刊)            |
| 83 現代日本誤百科 (967)：「一個も面白くない」町田 健文学研究科教授  | 4.10 (木) | 中日 (朝刊)            |
| 84 松本正之氏本学卒業生が JR 東海の特別顧問に就任し着任の挨拶のため中日新聞社を訪れた  | 4.10 (木) | 中日 (朝刊)            |
| 85 私の履歴書⑩：特殊研究 豊田章一郎全学同窓会会長   | 4.10 (木) | 日経 (朝刊)            |
| 86 論文の倫理教育について 濱口総長の入学式の式辞「コピペは、科学者として誇りと自尊を捨てるものです」が取り上げられる  | 4.10 (木) | 朝日 (夕刊)            |
| 87 大学内での喫煙について本学での状況が取り上げられる  | 4.10 (木) | 朝日 (夕刊)            |
| 88 林 利遥さん教育学部附属高等学校2年生がタイの少数民族の子どもたちを都市観光に連れていく非政府組織(NGO)のプロジェクトにスタッフとして同行                              | 4.11 (金) | 中日 (朝刊)            |
| 89 私の履歴書⑪：クラウン 豊田章一郎全学同窓会会長   | 4.11 (金) | 日経 (朝刊)            |
| 90 秘密保護法 言わねばならないこと 英国エセックス大学人権センター研究員藤田早苗氏国際開発研究科修了生   | 4.11 (金) | 中日 (朝刊)            |
| 91 文学部が消える？ 塩村 耕文学研究科教授は「文学部や人文学のもつ意義について、議論が深まることを期待したい」と語る  | 4.11 (金) | 中日 (夕刊)            |
| 92 名古屋市女性会館学習グループ平成26年度前期講座「仏教美術・文化に親しむ会」：中村夏葉さん文学研究科博士課程3年生が講演   | 4.12 (土) | 朝日 (朝刊)            |
| 93 私の履歴書⑫：元町工場 豊田章一郎全学同窓会会長   | 4.12 (土) | 日経 (朝刊)            |
| 94 大学図書館で議論しよう：附属図書館のリニューアルについて佐野 充環境学研究科教授は「学生が滞在しやすいよう学習や生活支援の機能を拡充させた」と語る                            | 4.13 (日) | 朝日 (朝刊)            |
| 95 中日文化センター講座「地球46億年の軌跡」：大路樹生博物館教授  | 4.13 (日) | 中日 (朝刊)            |
| 96 七原優介さん教育学部4年生がトヨタ自動車株式会社入社を決断  | 4.13 (日) | 中日スポーツ             |
| 97 私の履歴書⑬：初の海外出張 豊田章一郎全学同窓会会長   | 4.13 (日) | 日経 (朝刊)            |
| 98 レーザー：濱口総長が「研究者は最後は一人。研究では瞬間、瞬間の倫理観が問われる」と語る  | 4.15 (火) | 日刊工業               |
| 99 現代日本誤百科 (968)：「重く受け止める」町田 健文学研究科教授   | 4.15 (火) | 中日 (朝刊)            |
| 100 私の履歴書⑭：デミング賞 豊田章一郎全学同窓会会長   | 4.15 (火) | 日経 (朝刊)            |
| 101 紙つぶて：不均等な時間 杉山 直理学研究科教授   | 4.15 (火) | 中日 (夕刊)            |

## 第55回名大祭を6月5日(木)～8日(日)に開催

第55回名大祭が、6月5日(木)～8日(日)に東山キャンパスで行われます。  
今年のテーマは「夢見たっていいじゃないか、名大だもの。」です。  
さまざまな企画を用意して、皆様のご来場をお待ちしております。

開催日程：6月5日(木)～8日(日)

会場：名古屋大学東山キャンパス

最寄駅：市営地下鉄名城線名古屋大学駅

(ご来場の際は公共交通機関をご利用ください)

### ●環境対策の取り組み

第55回名大祭では、環境保護への取り組みとしてごみの分別を徹底して行っています。また、模擬店での使用済みの油や割り箸、家庭内や学内で出るペットボトルキャップを回収して、リサイクルを行っています。油は塗料に、割り箸は再生紙に、ペットボトルキャップはワクチンにリサイクルされています。皆様ご協力お願い致します。

### ●第55回名大祭における食品の取扱いについて

第55回名大祭におきましても、前回までの模擬店衛生管理体制を見直し、改善を行い、さらなる万全な模擬店運営システムの確立に名大祭本部実行委員会一同努めております。

皆様に安心して名大祭を楽しんでいただけるよう、千種保健所のご指導の下、模擬店運営を行ってまいりますので、ご理解のほどよろしくお願い致します。

### ●バリアフリーへの取り組み

第55回名大祭では、障がい者、子ども連れの方、妊婦、外国の方を含むすべての来場者の方々に名大祭を楽しんでもらえるようにいろいろな取り組みを行っています。

多目的トイレや障害となる坂道などの場所を記したバリアフリーマップ、外国の方に役立つ英語マップを作成しています。また、各企画会場での優先席の設置、案内所で車いす貸出しを行っています。

### お問い合わせ

名古屋大学学生会館第7集会室

名大祭本部実行委員会

TEL/FAX 052-789-5178

E-mail mail@meidaisai.com

URL http://meidaisai.com



### ●講演会企画

「ユニバース 無限の宇宙、そのひとかけらを理解する」

私たちの頭上に広がる広大な宇宙。そこにはまだまだ明らかになっていない謎が多くあります。多くの人を魅了する宇宙について名古屋大学大学院理学研究科宇宙論研究室の杉山 直教授による講演会を行います。杉山教授ご自身の研究をもとにした分かりやすい講演会となっております。皆様のご来場をお待ちしております。

講師：名古屋大学大学院理学研究科宇宙論研究室  
杉山 直 教授

日時：6月7日(土)14:00～16:00

場所：IB 電子情報館 中棟2階 IB 大講義室

※現在、事前応募受け付け中です。詳細は名大祭本部実行委員会までお問い合わせください。



開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

2月12日(水)～5月30日(金)

場 所：附属図書館医学部分館  
2階入口ホール

時 間：9:00～20:00(平日)、  
13:00～17:00(土曜日)

休 館 日：日・祝日

入 場 料：無料

附属図書館医学部分館第6回ミニ二展示会  
「戦争と大学—1931～1945官立名古屋医科大学・  
名古屋帝国大学—」

内 容：医学部史料室に所蔵する史料の中から、名古屋空襲により甚大な被害も受けた戦争の時代の官立名古屋医科大学・名古屋帝国大学における研究・教育・医療についての史料、写真等を展示



[問い合わせ先]

附属図書館医学部分館 052-744-2505

3月4日(火)～7月12日(土)

場 所：博物館特別展示室

時 間：10:00～16:00

休 館 日：日・月曜日

入 場 料：無料

第18回博物館特別展  
「人類史上画期的な石器—名大のアフリカ考古学と  
南山大の旧石器コレクション—」

[関連講演会]

5月17日(土)

場 所：博物館3階講義室

時 間：14:00～15:30

講演題目：「南山大学人類学博物館マリンガー・コレクションの石器資料」

講 演 者：川合 剛氏(名古屋市博物館学芸員)

対 象：一般

参 加 費：無料



[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

3月24日(月)～6月4日(水)、  
6月9日(月)～8月27日(水)

場 所：博物館野外観察園  
セミナーハウス2階

時 間：10:00～16:00

(入館は15:30まで)

休 館 日：土・日・祝日、8月14日～18日

入 場 料：無料

野外観察園セミナーハウス サテライト展示  
「ボタニカルアートと写真による観察園の植物」

テ ー マ：「Ⅲ—春の植物」(3/24～6/4)、  
「Ⅳ—夏の植物」(6/9～8/27)



[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

4月10日(木)～7月31日(木)  
(期間中の木曜開催)

場 所：環境総合館1階レクチャーホール

時 間：17:50～19:20

定 員：100名

対 象：学生、一般

参 加 費：5,000円(愛知県内の学生は無料)

続・持続可能な社会Ⅶ  
—持続可能な開発のための教育(ESD)—

内 容：世代間の公平性としての環境・資源の問題を中心に講義を進め、SDを担う人材を育成し愛知・名古屋を世界のESDの拠点にしていくことを目的とする



[問い合わせ先]

愛知学長懇話会事務局 052-747-6587

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

**5月17日(土)、5月24日(土)、5月31日(土)**  
 場 所: 札幌市男女共同参画センター  
 3階ホール(札幌市北区) (5/17)、  
 一橋大学一橋講堂  
 (東京都千代田区) (5/24)、  
 梅田スカイビルスペース36  
 (大阪市北区) (5/31)  
 時 間: 14:30~18:30 (5/17)、  
 13:00~16:45 (5/24、5/31)  
 参 加 費: 無料

**博士課程教育リーディングプログラム講演会・説明会**  
**「創れ世界! 踏み出す NAGOYA!」**



[問い合わせ先]  
 リーディング大学院推進機構本部  
 kouenkai2014@leading.nagoya-u.ac.jp

**5月17日(土)、11月12日(水)**  
 場 所: 博物館野外観察園、  
 博物館展示室  
 時 間: 13:00~15:00  
 参 加 費: 無料

**博物館野外観察園見学会**

講 師: 西田佐知子 (博物館准教授)、  
 野崎ますみ (同研究員)  
 内 容: 季節の花をみながら自然を学び、電子顕微鏡でミクロの自然を  
 見る



[問い合わせ先]  
 博物館事務室 052-789-5767

**5月24日(土)、25日(日)**  
 場 所: 博物館 (5/24)、  
 長野県霧ヶ峰地域 (5/25)  
 時 間: 14:00~16:30 (5/24)、  
 8:00~20:00 (5/25)  
 定 員: 30名  
 対 象: 小学3年生以上、一般  
 (小学生は保護者同伴)  
 参 加 費: 1,000円

**平成26年度第1回地球教室**  
**—親子対象フィールドセミナー—**  
**「石器の材料を調べよう!**  
**—黒曜石と鉄平石のサイエンス—**

内 容: 縄文時代の採石場の見学や石器づくり体験を通して、人々が  
 使ってきた2つの火山岩(黒曜石と鉄平石)の謎にせまる



[問い合わせ先]  
 博物館事務室 052-789-5767

**5月27日(火)**  
 場 所: 情報基盤センター4階演習室  
 時 間: 13:00~14:30  
 定 員: 40名  
 対 象: 一般  
 参 加 費: 無料

**平成26年度第2回情報連携統括本部公開講演会・研究会**

内 容: 情報技術の最新動向について

[問い合わせ先]  
 情報推進部情報推進課 052-789-4368

**6月5日(木)**  
 場 所: 日本経済新聞社名古屋支社  
 3階会議室(名古屋市中区)  
 時 間: 18:30~20:00  
 定 員: 100名  
 対 象: 一般  
 参 加 費: 無料

**国際経済政策研究センター・キタン会**  
**第19回名古屋ビジネスセミナー**

講演題目: 『「公募」副市長の冒険』  
 講 演 者: 小林益久氏 (三重県松阪市副市長)



[問い合わせ先]  
 経済学研究科  
 附属国際経済政策研究センター  
 052-789-4945

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

**6月7日(土)、8日(日)**

場 所：理学部 C 館 2 階物理会議室  
(C207号室)  
時 間：10:00~16:00  
定 員：各20名  
対 象：中学生以上、一般 (6/7)、  
高校生以上、一般 (6/8)  
参 加 費：500円 (実験材料費)

**第5回先進科学塾@名大**

テ ー マ：「りんごは落ちるどこまでも!？」  
講 師：石川幸一氏 (岐阜物理サークル)  
内 容：身近な万有引力や力学の世界を実験で訪ねる

[問い合わせ先]

エコトピア科学研究所  
教授 中村光廣 052-789-3532

**6月11日(水)~9月30日(木)**

場 所：附属図書館医学部分館  
2 階入口ホール  
時 間：9:00~20:00 (平日)  
(8/8~9/30の平日は9:00~17:00)、  
13:00~17:00 (土曜日)  
休 館 日：日・祝日、  
8月9日~9月27日の土曜日、  
8月14日、15日、25~29日  
入 場 料：無料

**附属図書館医学部分館第7回ミニ展示会  
「千年の医書—平安時代から江戸時代までの  
古医書の世界—」**

内 容：「医心方」、「病草紙」、「傷寒論」、「捷徑医筈」、「蔵志図」、  
「解体新書」、「解体約図」など、古医書の歴史を語る上で  
極めて重要な史料 (一部覆刻版) を展示



[問い合わせ先]

附属図書館医学部分館 052-744-2505

**6月14日(土)、6月21日(土)、  
6月28日(土)、7月5日(土)**

場 所：博物館 3 階講義室  
時 間：10:30~12:00  
定 員：80名  
参 加 費：無料  
対 象：一般

**達人 (研究者) と話そう おもしろ博物学**

講演題目：「骨からわかる動物の歩き方」(6/14)  
講 演 者：藤原慎一 (博物館助教)  
講演題目：「風車の過去・現在・未来」(6/21)  
講 演 者：石田幸男 (国際教育交流本部特任教授)  
講演題目：「ロボットと暮らす日が来るか」(6/28)  
講 演 者：西堀賢司氏 (大同大学特任教授)  
講演題目：「石は語る」(7/5)  
講 演 者：足立 守 (PhD 登龍門推進室特任教授)

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767



**7月26日(土)、8月23日(土)**

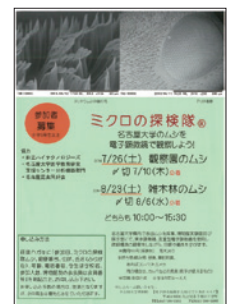
場 所：博物館 2 階実験室、展示室  
時 間：10:00~15:30  
参 加 費：50円 (保険料)  
対 象：小学 5 年生以上、一般

**ミクロの探検隊®**

テ ー マ：「観察園のムシ」(7/26)、「雑木林のムシ」(8/23)  
内 容：東山キャンパス構内で各自ムシを採集、実体顕微鏡や走査型電子  
顕微鏡を使用し微細構造の観察をしながら分類や働きを学ぶ

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767



名大トピックス No.252 平成26年 5月15日発行  
編集・発行/名古屋大学広報渉外課  
本誌に関するご意見、ご要望、記事の掲載などは広報渉外課にお寄せください。  
名古屋市千種区不老町 (〒464-8601)  
TEL 052-789-2016 FAX 052-788-6272 E-mail kouho@adm.nagoya-u.ac.jp

表紙  
エコトピア科学研究所の  
超高压電子顕微鏡施設  
(平成26年 3月25日)



名大トピックスのバックナンバーは、名古屋大学のホームページ  
(<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/topics/>) でもご覧いただけます。



## 145 古川図書館から新中央図書館へ

本誌今月号の記事にもあるように、先月の4月7日、全面改修工事がおこなわれた名古屋大学中央図書館がリニューアルオープンしました。中央図書館の大規模な改修は、1994(平成6)年竣工の大増築以来です。

現在の中央図書館が新築されたのは、1981(昭和56)のことです。それまでは、64年に建設された古川図書館(現在の古川記念館)が名大の中央図書館でした。しかし、所蔵図書は著増の一途をたどり、すぐに書庫スペースに不足をきたすようになって、早くも75年頃から増築の必要性が検討されるようになりました。

そして1977年10月の商議員会で「名古屋大学図書館新営に関する基本方針」が承認されました。同方針では、学習図書館・研究図書館・総合図書館・保存図書館の機能を中心とする、必要床面積15,000m<sup>2</sup>を満たす図書館を建設するとされました。その後、78年4月に図書館新築の概算要求を提出するとともに、学内で計画の具体化を進めました。

政府に予算が認められ、建設工事が始まったのは80年3月のことです。

工費約16億円をかけた床面積約10,000m<sup>2</sup>の新中央図書館は、1981年6月に竣工、図書や設備等の搬入のためしばらく休館したのち、9月7日に開館しました。古川図書館に比べ、床面積では2.5倍となり、学生用開架図書は教養部図書室の図書の移管によって2倍近くに増えました。また、自動入退館装置・無断持ち出し防止装置の導入、貸出し・返却の電算処理、全面開架方式など、新しい設備や方式が取り入れられました。入館者数は、主に教養部生の入館の増大により、開館後は前年度の7.3倍に急増しました。また、教員の入館者数が前年度の10.2倍と、研究図書館としても活性化したことが分かります。

ただし、当初必要とされた約3分の2の床面積での新築となったため、時を経ずして書庫の不足が問題となり、1994年に西側への増築がおこなわれたのです。



|   |   |   |
|---|---|---|
| 1 | 2 | 3 |
| 4 | 5 |   |

- 1 新中央図書館の建設工事初期の様子(1980年撮影)
- 2 竣工直後の新中央図書館(1981年撮影)。横二条の茶色は、今回の改修工事にともなって白にあらためられた。
- 3 新中央図書館完成直後の東山キャンパス(『名古屋大学概要 昭和56年度』より)。のちに西側へ元の建物に接続するように増築された。
- 4 新中央図書館の入退館ゲート(1983年撮影)。自動入退館装置は、メーカーと共同で開発した。無断持ち出し防止装置と組み合わせて導入したのは、日本の大規模図書館では初めての試みであった。
- 5 新中央図書館の書架と閲覧席(1983年撮影)。閲覧席を木製に統一したが、完成当初よりとくに試験期間中の座席不足が問題となった。これは、1994年の増築理由の一つでもあった。